

第 80 回 幹 事 会

平成 21 年 7 月 23 日

日 本 学 術 会 議

第80回幹事会議事次第

日時：平成21年7月23日（木） 14：00

- | | | |
|--|------|--|
| I 非公開審議事項
1 委員会関係 | 提案1 | 幹事会附置委員会の設置及び委員の決定 |
| | 提案2 | 機能別委員会における分科会等の委員の決定 |
| | 提案3 | 分野別委員会運営要綱の一部改正及び委員の決定等 |
| | 提案4 | 課題別委員会に係る分科会の設置期間の延長及び委員の決定等 |
| 2 国際関係 | 提案5 | 日本学術会議とバングラデシュ科学アカデミー (Bangladesh Academy of Sciences) の間の友好協定について |
| 3 その他 | | 学術刊行物の指定に係る審査協力について |
| | | 年次報告書作成等について |
| | | 平成22年度予算概算要求（案）について |
| II 審議事項
1 規則等
2 団体の指定
3 国際会議関係
4 地区会議関係
5 シンポジウム等 | 提案6 | 日本学術会議協力学術研究団体規程の一部を改正する決定案について |
| | 提案7 | 日本学術会議協力学術研究団体の指定 |
| | 提案8 | The Executive Board Meeting of the InterAcademy Panel on international issues (IAP)の開催について |
| | 提案9 | Eighth Meeting of the ICSU Regional Committee for Asia and the Pacific |
| | 提案10 | サウジアラビア・アブドゥラ王立科学技術大学 (KAUST) 創立記念式典への会員の派遣 |
| | 提案11 | 第2回IAP Conference for Young Scientists-2009への会員の派遣 |
| | 提案12 | 平成21年度日本・カナダ女性研究者交流事業実施要綱について |
| | 提案13 | 平成21年度代表派遣実施計画の変更について |
| | 提案14 | 平成21年度代表派遣について（平成21年10月～12月分） |
| | 提案15 | 中部地区会議の関係大学事務局の変更について |
| | 提案16 | 公開シンポジウム「ブダペスト宣言から10年：過去・現在・未来 |
| | 提案17 | 公開シンポジウム「人材育成のグローバルアプローチ」 |
| | 提案18 | 公開シンポジウム「遺伝子組換え植物研究の現状と課題」 |
| | 提案19 | 「国際電波科学連合公開シンポジウムー環境・エネルギーと電波科学ー」 |
| | 提案20 | 公開シンポジウム
「生物多様性に関する学術と社会の対話フォーラムの一年前プレフォーラム」 |
| | 提案21 | 公開シンポジウム「健康価値を創造するライフスタイルー21世紀の公衆衛生活動のあり方を求めて」 |
| | 提案22 | 公開シンポジウム「明日の海と食を守る水産海洋サステナビリティ学」 |
| | 提案23 | シンポジウム「科学技術におけるイノベーションの創出と人材育成 |

- 提案24 公開シンポジウム「社会格差の広がりと子どもの健康への影響
—今、学校保健に何が求められているか」
- 提案25 「阪神・淡路大震災15周年フォーラム」
- 提案26 日本学術会議主催公開講演会 「大学教育の分野別質保証を考
える」
- 提案27 日本学術会議主催公開講演会 「ダーウィン生誕200年—そ
の歴史的・現代的意義—」
- 提案28 日本学術会議主催公開講演会 「世界のグーグル化とメディア
文化財の公共的保全・活用」
- 提案29 日本学術会議近畿地区会議公開学術講演会
- 提案30 日本学術会議北海道地区会議主催講演会
- 提案31 日本学術会議九州・沖縄地区会議学術講演会
- 提案32 日本学術会議東北地区会議公開学術講演会
- 提案33 公開シンポジウム 計画行政学の過去・現在・未来
- 6 後援
- 提案34 国内会議
- 提案35 国際会議

Ⅲ その他

資料2

第80回幹事会（7月23日）出席者一覧

会長	金澤 一郎
副会長	大垣 眞一郎
副会長	鈴木 興太郎
副会長	唐木 英明

第一部 部長	広渡 清吾
第一部 副部長	小林 良彰
第一部 幹事	木村 茂光
第一部 幹事	山本 眞鳥

第二部 部長	浅島 誠
第二部 副部長	北島 政樹
第二部 幹事	山本 正幸
第二部 幹事	鷺谷 いづみ

第三部 部長	岩澤 康裕
第三部 副部長	後藤 俊夫
第三部 幹事	池田 駿介

事務局長	竹林 義久
------	-------

諸 報 告

第 1	前回幹事会以降の経過報告	ページ
1	会長等出席行事	1
2	会長談話	1
3	審議付託等	3
4	賞等の推薦	3
5	委員会委員の辞任	3
第 2	各部・各委員会等報告	
1	部会の開催とその議題	4
2	幹事会附置委員会の開催とその議題	4
3	機能別委員会の開催とその議題	5
4	分野別委員会の開催とその議題	5
5	課題別委員会の開催とその議題	10
6	サイエンスカフェの開催	11
7	総合科学技術会議報告	12
8	慶弔	12

第1. 前回幹事会以降の経過報告

1 会長等出席行事

月 日	行 事 等	対 応 者
6月25日(木)	総合科学技術会議有識者会合	金澤会長、竹林局長
6月30日(火)	サハラソーラーブリーダー計画シンポジウム ※開会ご挨拶、ご講演	金澤会長、唐木副会長
7月2日(木)	総合科学技術会議有識者会合	金澤会長、竹林局長
7月3日(木)	平成21年度第1回中部地区及び学術講演会 (信州大学) ※ご講演	金澤会長ほか
7月6日(月)	J-PARC 完成記念式典 ※ご挨拶	金澤会長
7月7日(火)	平成21年度九州・沖縄地区会議及び学術講演会 (長崎大学) ※ご挨拶	金澤会長ほか
7月9日(木)	総合科学技術会議有識者会合	金澤会長、竹林局長
	第1回 最先端研究開発支援ワーキングチーム	金澤会長
7月11日(土)	平成21年度中国・四国地区会議及び学術講演会 (徳島大学) ※ご講演	金澤会長、竹林局長ほか
7月13日(月)	第20回国際生物学オリンピック開会式	金澤会長
	第9回国際炎症学会 ※開会ご挨拶	大垣副会長
7月16日(木)	総合科学技術会議有識者会合	金澤会長、竹林局長
7月18日(土)～19日(日)	公開シンポジウム「愛媛から世界へ 農林水産学と社会貢献」 ※開会ご挨拶	唐木副会長
7月20日(月)	「英国科学実験講座」開催20周年記念シンポジウム Beautiful Science ～科学する楽しみ～	金澤会長
7月22日(水)	最先端研究開発支援ワーキングチームヒアリング	金澤会長、大垣副会長、唐木副会長、池田幹事、竹林局長

2 会長談話

「食品安全のための科学」に関する会長談話

つい先ごろ、参議院本会議において、内閣府食品安全委員会の下に設置されたプリオン専門調査会の座長であった科学者を、食品安全委員会委員に推す人事が否決されました¹。科学者が直接責任を問われるのは、故意に不正行為(ねつ造、改ざん、盗用など)を行った場合と科学的判断を誤った場合などですが、問題にされた事例はそのいずれにも当てはまりません。

この出来事の根底には「安全のための科学」に対する重大な誤解があると考えられますので、国民の皆様には正しいご理解をいただきたいと考え、談話を発表することに

しました。

食品の安全を守るためには、科学的観点のみから行う「リスク評価」の実施が重要です。これは、例えば食品中に含まれる有害な微生物や化学物質などを摂取した場合、どのくらいの確率でどの程度健康への悪影響が起こるのかを科学的に評価するもので、これを上記の内閣府食品安全委員会が担当しています。一方、このような科学的な「リスク評価」の結果を踏まえて、技術的な実行可能性、費用対効果、国民感情など様々な事情を考慮し、関係者との十分な対話を行った上で適切な政策・措置を決定・実施する作業が「リスク管理」です。これは厚生労働省や農林水産省等の行政機関が担当します。

こうして「リスク評価」と「リスク管理」を分離することにより、リスク評価の科学的な独立性と中立性が図られるとともに、リスク管理機関が、リスク評価を前提としつつ、その他の様々な事情を考慮して政策・措置を決定・実施する裁量が確保されています²。しかし、残念ながら、このような仕組みが各方面でまだ正確かつ十分に理解されていないために、誤解や混乱が起こっていると考えられます。

今回の出来事に関する第1の問題は、リスク評価者である食品安全委員会が、データ不足のために科学的評価は困難であることを承知しつつも、食用牛肉のリスクを評価したとして非難された点です。一般に科学の結論を得るためには多くのデータが必要であり、データが多ければ多いほど不確実性は減ります。

科学者は長い時間をかけてデータを集め、少しでも確実な結論を得る努力を続けます。

一方、何らかの社会的な問題に対して緊急に対策を実施する場合には、その時点で得られるすべての、しかし十分とは言えないデータだけを基にして、いくつかの前提を置いて「確率論的」に早急に結論を出さなくてはならないことがあります。もちろん新たなデータが得られたときには評価結果を見直します。これは国際的にも広く認められたリスク評価の手法です。もしも「データ不足による科学的評価の困難さ」を理由にしてリスク評価の結論を先送りするならば、科学の判断が全く入らないリスク管理者の主観的な判断だけに基づく政策・措置を策定するという、好ましくない結果を生むことになります。

第2の問題は、米国産牛肉の輸入再開を決定したのはリスク管理者であるにもかかわらず、科学的知見に基づき客観的かつ中立公正にリスク評価を行った研究者個人の責任が問われたことです。これはリスク評価とリスク管理の違いを十分に理解していないために起こった誤りと考えられますが、その影響は重大です。このような非難を避けようとして、リスク評価に際して社会的影響を予測しながら評価を行うというような非科学的要素が入り込みやすくなり、リスク評価の独立性と中立性も損なわれ、食品の安全を守る上でも大きな障害となることを危惧します。

食品の安全確保の仕組みを守るためには、このような誤解を解くことが重要であり、関係するすべての人たちがリスク評価という科学の性格を理解し、その独立性と中立性が重要であることを改めて認識し、これを守る努力を続けていかなければならないと考えます。

平成21年6月30日

日本学術会議会長

金澤一郎

1 第171回国会 議院運営委員会 第29号（平成21年6月5日）

2 日本学術会議 牛海綿状脳症（BSE）と食品の安全特別委員会報告『食品の「安全」のための科学と「安心」のための対話の推進を』（平成15年6月24日）

参考：食品安全委員会メールマガジン第148号（平成21年6月12日）

http://www.fsc.go.jp/sonota/e-mailmagazine/e-mailmagazine_148.html

3 審議付託等

件名	申請者	審議付託先
東京弁護士会資格審査会・懲戒委員会・綱紀委員会の委員及び予備委員の推薦	東京弁護士会会長	第一部
第6回中高生南極北極科学コンテスト」の後援	大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立極地研究所長	第三部
第50回大気環境学会年会後援	社団法人大気環境学会会長	第三部
第89回慶應医学会総会シンポジウムの後援	慶應医学会会長	第二部
第33回人間－生活環境系シンポジウムの後援	人間－生活環境系学会会長	第二部 第三部
ジョン・クレブス卿講演会の後援	ジョン・クレブス卿講演会準備委員会代表	第二部
SAMPE JAPAN／先端材料技術展2009の後援	先端材料技術協会（SAMPE Japan）会長、日刊工業新聞社取締役社長	第三部
日本学術会議協力学術研究団体の指定	東京体育学会他	科学者委員会

4 賞等の推薦

件名	照会先	備考
ABEL 賞	各部	推薦なし

5 委員会委員の辞任

○ 電気電子工学委員会 URSI 分科会 電磁波の雑音・障害小委員会

河崎善一郎、杉浦 行、藤原 修（平成21年6月15日付）

○ 総合工学委員会エネルギーと人間社会に関する分科会

西尾 茂文（平成21年6月17日付け）

○ 食料科学委員会・基礎医学委員会・薬学委員会合同トキシコロジー分科会

野本 明男（平成21年7月9日付）

第2. 各部・各委員会報告

1 部会の開催とその議題

(1) 第二部拡大役員会（第2回）・日本の展望委員会

生命科学作業分科会（第4回）合同会議（7月21日）

- ①「日本の展望 生命科学作業分科会報告」の取りまとめについて
- ②「大学教育の分野別質保証の在り方検討委員会」審議状況について（廣田参事官）
- ③その他

2 幹事会附置委員会の開催とその議題

(1) 日本の展望委員会 起草分科会（第5回）（6月25日）

- ①前回議事要旨（案）の確認
- ②「日本の展望－学術からの提言2010」（案）の構成、内容及び執筆分担について
- ③「第4期科学技術基本計画に関する提言」基本構成（0次案）の検討
- ④各府省の第4期科学技術基本計画に向けた検討状況について
- ⑤今後の進め方について
- ⑥その他

(2) 日本の展望委員会（第6回）（6月29日）

- ①前回議事要旨（案）の確認
- ②各分科会の検討状況について
- ③「日本の展望－学術からの提言2010」（案）の構成、内容及び執筆分担について
- ④「第4期科学技術基本計画に関する提言」基本構成（0次案）の検討
- ⑤今後の進め方について
- ⑥その他

(3) 日本の展望委員会 基礎科学の長期展望分科会（第8回）（7月2日）

- ①前回議事要旨（案）の確認
- ②報告書とりまとめについて
- ③その他

(4) IT環境整備推進委員会（第2回）（7月7日）

- ①第1回委員会の審議内容について
- ②日本学術会議のIT化の現状について
- ③日本学術会議におけるIT化に向けての今後の取組について
- ④今後の運営について
- ⑤その他

(5) 日本の展望委員会 人文・社会科学作業分科会（第7回）（7月9日）

- ①人文・社会科学作業分科会報告書案の重点事項についての検討
- ②その他

(6) 日本の展望委員会 起草分科会（第6回）（7月16日）

- ①前回議事要旨（案）の確認
- ②「日本の展望－学術からの提言2010」（案）の執筆作業の進め方について
- ③「日本の展望－学術からの提言2010」（案）の重点事項について
- ④今後の進め方について
- ⑤その他

(7) 日本の展望委員会 「個人と国家」分科会 (第8回) (7月21日)

- ①分科会の最終報告案の検討 ②その他

3 機能別委員会の開催とその議題

(1) 科学と社会委員会 (第7回) (6月29日)

- ①知のタペストリーの出版計画の現状報告及び意見交換
②Human Rights Networkのモロッコ会議の報告及び
意見交換 ③日本学術会議のリーフレット作成の可能性の検討 ④その他

(2) 科学者委員会 男女共同参画分科会分科会 (第5回) (7月6日)

- ①アンケート調査について ②ワーキンググループの活動について ③今後の
スケジュールについて ④その他

(3) 科学者委員会 (第5回) (7月13日)

- ①学術刊行物の指定に対する審査協力の見直し ②日本学術会議協力学術研究
団体の指定に係る審査及び手続の見直し ③協力学術研究団体あての連絡文書
④学術刊行物の指定に係る審査協力 ⑤日本学術会議協力学術研究団体の指定
⑥平成21年度日本学術会議主催公開講演会 ⑦地区会議講演会の開催
⑧学術誌問題検討分科会の委員の追加

(4) 科学者委員会 学術の大型研究計画検討分科会 (第5回) (7月13日)

- ①宇宙・惑星・地球科学分野、エネルギー分野ヒアリング
②第2回調査結果の検討 ③今後の進め方について ④その他

(5) 科学と社会委員会 年次報告等分科会 (第7回) (7月16日)

- ①年次報告書の作成について ②外部評価委員の人選について ③その他

4 分野別委員会の開催とその議題

第一部担当

(1) 地域研究委員会 (第2回) (6月25日)

- ①地域研究委員会としての日本の展望(案)の検討 ②その他

(2) 社会学委員会 (第4回) (6月26日)

- ①日本の展望 中間報告について
②2009年第1部夏季部会について(7月25日、26日、北海道大学
日本の展望における社会学分野の説明) ③その他

(3) 法学委員会 (第4回)・法学委員会 法学展望分科会 (第3回) 合同会議
(6月26日)

- ①法学展望分科会の最終報告(案)について ②今後の活動について ③その他

(4) 史学委員会 歴史・考古学資料の情報管理・公開に関する分科会
(第2回) (6月27日)

- ①「公文書管理法」法制化をめぐって
報告者：藤井 譲治、コメント：高埜 利彦
②その他

(5) 法学委員会 立法学分科会 (第3回) (6月27日)

- ①報告者：橋本 努 委員 ②今後の予定 ③その他

(6) 法学委員会 「不平等・格差社会とセーフティ・ネット」分科会 (第3回)
(6月28日)

- ①シンポジウム打ち合わせ ②その他

(7) 政治学委員会 政治過程分科会 (第2回) (6月28日)

- ①今後のシンポジウムの企画について ②政策提言について ③その他

(8) 政治学委員会 政治理論分科会 (第3回) (6月28日)

- ①「提言」とりまとめへ向けた今後の日程について ②その他

(9) 社会学委員会 社会理論分科会 (第3回) およびグローバリゼーション
小委員会 (第2回)、シミュレーション小委員会 (第2回)、モダニティ
小委員会 (第2回) 合同会議 (6月30日)

- ①各小委員会のテーマと討議
グローバリゼーション小委員会 吉原委員、園田委員
「アジアの中のグローバリゼーション」
シミュレーション小委員会 佐藤委員、遠藤委員
「社会学の中のシミュレーション」
モダニティ小委員会 盛山委員、山田委員
「モダニティの変容」
②質疑・意見交換 ③その他

(10) 哲学委員会 日本の展望哲学分科会 (第4回) (6月30日)

- ①最終報告案について ②その他

(11) 言語・文学委員会 (第4回) (7月3日)

- ①日本の展望について ②シンポジウム開催について ③その他

- (12) 地域研究委員会 人類学分科会 (第3回) (7月6日)
①人類学の社会的還元について ②シンポジウム計画について
③「日本の展望」について ④その他
- (13) 心理学・教育学委員会 心と身体から教育を考える分科会
(第2回) (7月7日)
①今期活動方針の具体化について ②特任連携会員の追加に関して ③その他
- (14) 経済学委員会 現代経済政策史史料適正保存促進分科会 (第5回) (7月7日)
①視察内容に関する意見交換 ②今後の調査に関する打ちあわせ ③その他
- (15) 地域研究委員会 国際地域開発研究分科会 (第3回) (7月7日)
①報告 (5:00~6:30)
1) 絵所秀紀:日本の援助は有効だったか
2) 小泉潤二:国際協力と「人間の安全保障」
3) 黒崎 卓:「報告」から「提言」へ
②今後の予定 ③その他
- (16) 哲学委員会 哲学・倫理・宗教教育分科会 (第4回) (7月11日)
①9月の宗教学会でのパネル発表について ②来年度のシンポジウムについて
③その他
- (17) 心理学・教育学委員会 健康・医療と心理学分科会 (第3回) (7月14日)
①臨床心理士会などの動向について ②医療心理士養成カリキュラムについて
③サイエンスアゴラでのシンポジウムについて ④その他
- (18) 法学委員会 法学系大学院分科会 (第3回) (7月17日)
①中教審特別委員会報告の検討 報告者:田中委員
②アンケート原案の検討 ③その他
- (19) 心理学・教育学委員会・史学委員会・地域研究委員会合同
高校地理歴史科教育に関する分科会 (第4回) (7月19日)
①「外国の地理・歴史教育から何を学ぶか」
報告者:井田仁康氏、近藤孝弘氏 (連携会員)、森茂岳雄氏 (参考人)
- (20) 経済学委員会 資産市場とマクロ経済分科会 (第1回) (7月22日)
①今後の活動方針について ②その他
- (21) 社会学委員会 少子高齢社会分科会 (第2回) (7月22日)
①今後の分科会活動について ②その他

(22) 法学委員会 「リスク社会と法」分科会 (第3回) (7月24日)

- ①報告書案の検討 ②その他

第二部担当

(1) 農学委員会・食料科学委員会・健康・生活科学委員会合同 食の安全分科会
(第2回) (6月26日)

- ①新委員の紹介について ②提言のとりまとめについて ③その他

(2) 農学委員会・食料科学委員会合同 農業情報システム学分科会
(第3回) (7月3日)

- ①分科会WG「農林水産RS/GIS」について
②分科会WG「知能的太陽光植物工場」について
③話題提供／古在豊樹 委員「なぜ、自然光（太陽光）植物工場なのか？
ーその課題と展望ー」
④その他

(3) 基礎医学委員会・臨床医学委員会合同 腫瘍分科会 (第1回) (7月7日)

- ①委員長、副委員長、幹事の選出 ②今後の活動について ③その他

(4) 基礎医学委員会・臨床医学委員会合同 医学教育分科会 (第4回) (7月7日)

- ①中田力先生、奈良信雄先生からのヒアリング ②その他

(5) 臨床医学委員会 臨床系大学院分科会 (第1回) (7月8日)

- ①委員長、副委員長、幹事の選出 ②今後の活動について ③その他

(6) 食料科学委員会・基礎医学委員会・薬学委員会合同 トキシコロジー分科会
(第2回) (7月9日)

- ①本年度の活動方針について ②シンポジウムの開催について ③その他

(7) 健康・生活科学委員会 健康・スポーツ科学分科会 (第4回) (7月10日)

- ①各ワーキンググループからの経過報告について
1) 指針の策定(提言) <大築委員>
2) 男女共同参画 <飯田委員>
3) ターミノロジー <寒川委員>
4) 若手研究者育成 <加賀谷委員>
5) 将来展望 <福永委員>
6) 運動と心社会性 <杉原委員>
②日本スポーツ体育健康科学学術連合関係 <高松委員>
③健康・生活科学委員会関係 <福永委員> ④その他

(8) **薬学委員会 医療系薬学分科会** (第2回) (7月10日)

- ①今後の活動について ②その他

(9) **歯学委員会** (第4回) (7月13日)

- ①「日本の展望」提言について ②今後の予定について ③その他

(10) **臨床医学委員会 血液・造血分科会** (第1回) (7月14日)

- ①今後の活動について ②その他

(11) **農学委員会 (第3回)・食料科学委員会 (第3回) 合同委員会** (7月18日)

- ①日本の展望についての報告と今後の予定
②委員会の今後の推進方向について
③最近の農業・食料科学に関する課題(話題)について
④シンポジウム(内容)について
⑤農学・食料科学の地域貢献について
⑥シンポジウムを振り返って
⑦その他

第三部担当

(1) **総合工学委員会・土木工学・建築学委員会合同 WFE O分科会**
(第4回) (6月29日)

- ①WEC2015招致について ②第3回WEFE国際シンポジウムについて
③WFE Oに冠するその他の対応 ④その他

(2) **総合工学委員会 エネルギーと人間社会に関する分科会** (第3回) (7月1日)

- ①話題提供 1) 村上委員 2) 山地委員 ②その他

(3) **総合工学委員会・機械工学委員会合同 フロンティア人工物分科会**
(第2回) (7月3日)

- ①総合科学技術会議フロンティア分野の中間フォローアップについて
②第21期フロンティア人工物分科会の活動計画について
③「日本の展望」について ④その他

(4) **環境学委員会 環境政策・環境計画分科会** (第3回) (7月3日)

- ①話題提供：林 良嗣 委員 ②話題提供：武内 和彦 委員
③話題提供：佐藤 洋平 委員 ④その他

(5) **情報学委員会 ユビキタス空間情報社会基盤分科会** (第6回) (7月9日)

- ①分科会提言の具体化案に関する議論 ②その他

(6) 地球惑星科学委員会 国際対応分科会 (第3回) (7月10日)

- ①国際活動報告と国際案件の処理 WCRP-JSC会合報告(中島)等
- ②国内におけるイニシアチブの形成論議 ③その他

(7) 電気電子工学委員会 電気電子工学企画分科会 (第3回) (7月13日)

- ①「日本の展望」に係る電気電子工学委員会「報告(案)」について ②その他

(8) 地球惑星科学委員会 SCOR分科会 (第1回) (7月13日)

- ①分科会委員長および幹事の決定 ②本分科会の役割と活動について
- ③本年度SCOR作業部会プロポーザルの審査(査読)について
- ④本年度SCOR執行理事会への対応について
- ⑤本分科会への小委員会附置について ⑥その他

(9) 土木工学・建築学委員会 国土と環境分科会 (第2回) (7月14日)

- ①「自然共生型流域圏の形成要件」,「都市・地域環境の再生方向について」の点検・集約 ②提言内容と作業スケジュール ③シンポジウム企画
- ④委員の研究活動紹介 ⑤その他

5 課題別委員会の開催とその議題

(1) 大学教育の分野別質保証の在り方検討委員会

教養教育・共通教育検討分科会 (第7回)・

日本の展望委員会 知の創造分科会 (第5回) 合同分科会 (6月25日)

- ①有識者からのヒアリングについて ②今後の検討の方向性について
- ③その他

(2) 大学教育の分野別質保証の在り方検討委員会 質保証枠組み検討分科会

(第6回) (7月1日)

- ①今後の検討の方向性について ②その他

(3) 大学教育の分野別質保証の在り方検討委員会

教養教育・共通教育検討分科会 (第8回)・

日本の展望委員会 知の創造分科会 (第6回) 合同分科会 (7月7日)

- ①今後の検討の方向性について ②その他

(4) 大学教育の分野別質保証の在り方検討委員会

大学と職業との接続検討分科会 (第3回) (7月7日)

- ①今後の検討の方向性について ②その他

(5) 大学教育の分野別質保証の在り方検討委員会

大学と職業との接続検討分科会（第4回）（7月21日）

①今後の検討の方向性について ②その他

(6) 大学教育の分野別質保証の在り方検討委員会

教養教育・共通教育検討分科会（第9回）・

日本の展望委員会 知の創造分科会（第7回）合同分科会（7月22日）

①日本の展望委員会報告案の取りまとめについて ②その他

6 サイエンスカフェの開催

(1) 6月26日（金） 19:00～20:30

場 所：文部科学省情報ひろばラウンジ

テーマ：ダーウィンとアメリカの微妙な関係

講 師：向井 万起男（慶応大学医学部准教授）

渡辺 政隆（JSTエキスパート）

(2) 6月27日（土） 15:30～18:00

場 所：三鷹ネットワーク大学

テーマ：地球の過去・現在・未来 ～リテラシー力養成講座～

講 師：鳥海 光弘（東京大学大学院新領域創成化学研究科教授）

(3) 6月27日（土） 18:30～20:30

場 所：三鷹ネットワーク大学

テーマ：サイエンス・リテラシー・カフェ 宇宙と地球について

講 師：北原 和夫（国際基督教大学教授）

唐牛 宏（国立天文台光赤外研究部教授）

近田 義広（国立天文台ALMA推進室教授）

鳥海 光弘（東京大学大学院新領域創成化学研究科教授）

(4) 7月16日（木） 17:30～19:00

場 所：金沢大学サテライト・プラザ集会室

テーマ：社会認識を哲学する

講 師：柴田 正良（金沢大学大学院人間社会環境研究科／人文学類教授
金沢大学附属図書館長）

東田 陽博（日本学術会議連携会員

金沢大学医学系大学院／脳細胞遺伝子教授

金沢大学子どものこころの発達研究センター長）

7 総合科学技術会議報告

1. 本会議

なし

2. 専門調査会

○生命倫理専門調査会（第57回） 6月30日

- （1）諮問第9号「ヒトES細胞の樹立及び分配に関する指針について」
諮問第10号「ヒトES細胞の使用に関する指針について」について
- （2）振興調整費研究報告「遺伝子診断の脱医療・市場化が来す倫理社会的課題」と
日本人類遺伝学会「DTC遺伝学的検査に関する見解」について

3. 総合科学技術会議有識者議員会合

- | | | |
|---|-------|---------|
| ・ | 6月25日 | *会長出席 |
| ・ | 7月 2日 | *会長出席 |
| ・ | 7月 9日 | *会長出席 |
| ・ | 7月16日 | *会長出席 |
| ・ | 7月23日 | *会長出席予定 |

8 慶弔

○ご逝去

砂田 卓士（すなだたくじ）86歳 7月6日 第12～第14期会員
専修大学名誉教授

審 議 事 項

			頁
Ⅱ 審議事項	提案6	日本学術会議協力学術研究団体規程の一部を改正する決定案について	1
1 規則等			
2 団体の指定	提案7	日本学術会議協力学術研究団体の指定	6
3 国際会議関係	提案8	The Executive Board Meeting of the InterAcademy Panel on international issues (IAP)の開催について	8
	提案9	Eighth Meeting of the ICSU Regional Committee for Asia and the Pacific (第8回国際科学会議アジア太平洋地域委員会)の開催について	13
	提案10	サウジアラビア・アブドゥラ王立科学技術大学(KAUST)創立記念式典への会員の派遣	16
	提案11	第2回IAP Conference for Young Scientists-2009への会員の派遣	18
	提案12	平成21年度日本・カナダ女性研究者交流事業実施要綱について	26
	提案13	平成21年度代表派遣実施計画の変更について	28
	提案14	平成21年度代表派遣について(平成21年10月～12月分)	30
4 地区会議関係	提案15	中部地区会議の関係大学事務局の変更について	32
5 シンポジウム等	提案16	公開シンポジウム「ブダペスト宣言から10年:過去・現在・未来」	34
	提案17	公開シンポジウム「人材育成のグローバルアプローチ」	36
	提案18	公開シンポジウム「遺伝子組換え植物研究の現状と課題」	38
	提案19	「国際電波科学連合公開シンポジウム—環境・エネルギーと電波科学—」	40
	提案20	公開シンポジウム 「生物多様性に関する学術と社会の対話フォーラムの一年前プレフォーラム」	42
	提案21	公開シンポジウム「健康価値を創造するライフスタイル—21世紀の公衆衛生活動のあり方を求めて」	44
	提案22	公開シンポジウム「明日の海と食を守る水産海洋サステナビリティ学」	46
	提案23	シンポジウム「科学技術におけるイノベーションの創出と人材育成」	48
	提案24	公開シンポジウム「社会格差の広がり子どもの健康への影響—今, 学校保健に何が求められているか」	50
	提案25	「阪神・淡路大震災15周年フォーラム」	53
	提案26	日本学術会議主催公開講演会 「大学教育の分野別質保証を考える」	55
	提案27	日本学術会議主催公開講演会 「ダーウィン生誕200年—その歴史的・現代的意義—」	58
	提案28	日本学術会議主催公開講演会 「世界のグーグル化とメディア文化財の公共的保全・活用」	60
	提案29	日本学術会議近畿地区会議公開学術講演会	61

提案30	日本学術会議北海道地区会議主催講演会	62
提案31	日本学術会議九州・沖縄地区会議学術講演会	64
提案32	日本学術会議東北地区会議公開学術講演会	65
提案33	公開シンポジウム 計画行政学の過去・現在・未来	66
提案34	国内会議	67
提案35	国際会議	68

6 後援

Ⅲ その他

6	
幹事会	80

提 案

日本学術会議協力学術研究団体規程の一部を改正する決定案について

- 1 提案者 科学者委員会委員長
- 2 議 案 標記について、別紙案のとおり決定すること
- 3 提案理由 別表 1 で定められた協力学術研究団体の申込書について、
審査資料として使用するために、協力学術研究団体指定要件確
認書（別表 3）等を添付物として追加する。

日本学術会議協力学術研究団体規程（平成 1 7 年 1 0 月 4 日 日本学術会議第 1 回幹事会決定）の一部を次のように改正する。

次の表により、改正前欄に掲げる規定の傍線を付した部分をこれに対応する改正後欄に掲げる規定の傍線を付した部分のように改める。

改 正 後	改 正 前
(要件) (略) (称号の付与) 第 2 協力学術研究団体の称号の付与は、次の手続により行うものとする。 ① 称号の付与を受けようとする<u>学術研究団体は、申込書（別表 1 に定める様式）及び協力学術研究団体指定要件確認書（別表 3 に定める様式）に、学術研究団体の連合体は、申込書（別表 2 に定める様式）に、それぞれ所要の事項を記入の上、</u>会長あて申し込むものとする。 (略)	(要件) (略) (称号の付与) 第 2 協力学術研究団体の称号の付与は、次の手続により行うものとする。 ① 称号の付与を受けようとする団体は、申込書（別表 1 <u>又は別表 2</u>に定める様式）に所要の事項を記入の上、会長あて申し込むものとする。 (略)

附 則（平成 年 月 日日本学術会議第 回幹事会決定）

この決定は、決定の日から施行する。

別表（第2項関係）

日本学術会議協力学術研究団体申込書

平成 年 月 日

日本学術会議会長 殿

申込団体名

代表者氏名

印

日本学術会議の活動に協力する学術研究団体としての称号の付与を受けたいので、
関係書類を添えて下記により申し込みます。

記

- 1 名 称 和文（ふりがな）
英文
- 2 代表者（氏名、所属・肩書き、性別）
- 3 設立年月日
- 4 個人会員である構成員の数（学部学生を除く。）及び男女の別
- 5 役員の数及び男女の別
- 6 活動状況
（4）機関誌（誌名、創刊年月、発行回数／年、発行部数）
（5）会 合（年次総会、全国学術大会、公開講演会など主な会合名及び開催数／年）
（6）その他
- 7 連合体への加盟状況
（3） 国内（連合体名称、加盟年月日）
（4） 国外（連合体名称、加盟年月日）
- 8 事務所（事務局）
所在地 〒
事務担当者名、電話、F A X、E-mail、ホームページ

（略）

- 添付物 1 会則・約款、設立趣意書、機関誌 3部
- 2 役員名簿、会員名簿 男女別、所属する大学等機関名及び職名を含む。
- 3 協力学術研究団体指定要件確認書
- 4 その他活動状況の分かる資料

（略）

別表（第2項関係）

日本学術会議協力学術研究団体申込書

平成 年 月 日

日本学術会議会長 殿

申込団体名

代表者氏名

印

日本学術会議の活動に協力する学術研究団体としての称号の付与を受けたいので、関
係書類を添えて下記により申し込みます。

記

- 1 名 称 和文（ふりがな）
英文
- 2 代表者（氏名、所属・肩書き、性別）
- 3 設立年月日
- 4 個人会員である構成員の数（学部学生を除く。）及び男女の別
- 5 役員の数及び男女の別
- 6 活動状況
（1）機関誌（誌名、創刊年月、発行回数／年、発行部数）
（2）会 合（年次総会、全国学術大会、公開講演会など主な会合名及び開催数／年）
（3）その他
- 7 連合体への加盟状況
（1） 国内（連合体名称、加盟年月日）
（2） 国外（連合体名称、加盟年月日）
- 8 事務所（事務局）
所在地 〒
事務担当者名、電話、F A X、E-mail、ホームページ

（略）

- 添付物 1 会則・約款、設立趣意書、機関誌
- 2 役員名簿、（男女別及び所属する大学等機関名を含む。）
（新規）
- 3 その他活動状況の分かる資料

（略）

協力学術研究団体指定要件確認書

平成 年 月 日

団体名 _____

○ 記入方法

- 貴学会について、次表に示す各項目の要件を満たしていることを確認の上、確認欄に「○」を記入してください。
なお、すべての要件を満たさない場合は、協力学術研究団体の称号は付与されません。
- 要件(1)については、備考欄に個人会員である構成員の数(学部学生を除く。)を記入してください。
- 要件(3)については、備考欄aに研究者数(b・cの合計)及び構成員における研究者比率(研究者数/構成員数)を、bに大学教員及び研究機関研究員の人数をそれぞれ記入してください。また、大学教員及び研究機関研究員以外で研究者と考えられる者がいる場合は、cその他に人数を記入するとともに、研究者と考える理由を具体的に記入してください。
- 要件(4)については、備考欄aに役員数、研究者数(b+c)及び役員における研究者比率(研究者数/役員数)を、bに大学教員及び研究機関研究員の人数をそれぞれ記入してください。また、大学教員及び研究機関研究員以外で研究者と考えられる者がいる場合は、cその他に人数を記入するとともに、研究者と考える理由を具体的に記入してください。

要 件	確 認	備 考
(1) 構成員(個人会員)の数が100人以上であること		構成員数 (名)
(2) 学術研究の向上発達を図ることを目的としていること (注1)		
(3) 研究者 [*] の自主的な集まりで、研究者が構成員の半数以上であること(注2)		a 研究者数 (名) 研究者比率 (%)
		b 大学教員 (名) 研究機関研究員 (名)
		c そ の 他 (名)
(4) 役員の半数以上が研究者 [*] であること		a 役 員 数 (名) 研究者数 (名) 研究者比率 (%)
		b 大学教員 (名) 研究機関研究員 (名)
		c そ の 他 (名)
(5) 上記(4)の研究者が会費を負担していること		
(6) 人文科学、社会科学又は自然科学に関する学術の研究発表及び議論を主たる目的とする機関誌を発行していること(注3)		
(7) 機関誌は、発行の終期を予定し得ないものであること(注4)		
(8) 機関誌は、学術に関する団体自身が発行するものとしての形態を具備しているものであること(注5)		

(注1) 次のようなものは該当しません。

- ① 一定の思想、主義、主張の普及又は宣伝を主たる目的とするもの
- ② 趣味を目的とする同好者の集まりと認められるもの
- ③ 学術の研究が当該団体又は当該業種の事業目的の従たる目的に過ぎないと認められるもの
- ④ 営利を目的とすると認められた団体及びその附属機関

(注2) 次のようなものは該当しません。

- ① 国、特殊法人、独立行政法人及び地方公共団体並びにこれらの設置した学校及び附属機関
- ② 学校法人の設置した学校及び附属機関
- ③ ①②の名称を冠したもののうち、実質的に、構成員の資格が特定の大学、学術研究機関その他の団体に所属する者(かつてこれらに所属していたものを含む。)となっているもの
- ④ 団体の研究が、研究者で行われているとは認められないもの

(注3) 次のようなものは該当しません。

- ① 予稿集、講演要旨集、会議用資料など
- ② 団体又はその構成員の消息、意見等をその団体内に報告、交換することを主たる目的とするもの
- ③ 文献紹介、図書目録等単なる資料集
- ④ 時事を報道論議することを主たる目的とするもの

(注4) 単行本の体裁、性質を有するものは該当しません。

(注5) 発行人が国、特殊法人、独立行政法人、地方公共団体及び学校法人並びにこれらの設置した学校及び附属機関、書店、出版社等であって、学術研究団体自身の発行するものとしての形態を具備していない次のようなものは該当しません。

- ① 刊行物の表紙の発行人が、△△大学××学部となっているもの
- ② 刊行物の表紙の発行人が〇〇学会となっても奥付けの部分が△△大学××学部となっているもの

※ 「研究者」とは、人文・社会科学から自然科学までを包含するすべての学術分野において、新たな知識を生み出す活動、あるいは科学的な知識の利活用に従事する者をいう。

7	
幹事会	80

提 案

日本学術会議協力学術研究団体の指定

1. 提 案 者 会 長
2. 議 案 日本学術会議協力学術研究団体の審査結果を回答すること
3. 提 案 理 由 日本学術会議協力学術研究団体への新規申し込みのあった団体について、科学者委員会の意見に基づき、下記のとおり回答すること
としたい。

記

- 指定することを適当と認める。

(申請団体名)

日本応用経済学会
 日本性科学会
 日本総合学会
 日本人間ドック学会
 英語コーパス学会
 日本国際情報学会

団体の概要

- ・ 日本応用経済学会
経済学の応用分野の研究、関連した学際的研究、および応用分野の基礎となる理論的・計量的研究の進展を図り、研究者相互間および関連諸機関との交流を促進し、また、国際的研究交流を行う場を提供することを目的としている。
- ・ 日本性科学会
わが国における性科学の理論的確立及び性治療の技法の研究・開発を促進させるとともに、会員相互の連絡提携を計り、学術文化の発展に寄与することを目的としている。
- ・ 日本総合学会
科学・環境・教育・言語・国際・情報・文化に関する調査・研究の学際的情報交換を行うとともに、その調査・研究を支援・援助し普及することを目的としている。
- ・ 日本人間ドック学会
予防医学に関する学術の振興と高齢者の福祉の増進及び勤労者の福祉の向上を主たる目的としている。
- ・ 英語コーパス学会
コンピュータを利用した英語英文学研究の促進を目的としている。
- ・ 日本国際情報学会
国際情報について理論的、実践的に研究し、学術の進展と日本及び世界の相互理解を寄与することを目的としている。

8	
幹事会	8 0

提 案

The Executive Board Meeting of the InterAcademy Panel on international issues (IAP)の開催について

- 1 提 案 者 国際委員会委員長
- 2 議 案 標記会議を下記のとおり開催すること。

記

1. 会議名
(英) IAP Executive Committee Meeting
(日) IAP (InterAcademy Panel) 執行委員会
2. 日 程 平成 21 年 9 月 15 日 (火)、16 日 (水)
3. 場 所 日本学術会議 6 F 会議室
4. 主 催 IAP、日本学術会議
5. 出席者 IAP 執行委員
日本国内委員会 (国際委員会 IAP 担当委員) 等
6. 開催趣旨

日本学術会議は、日本国の科学者の内外に対する代表機関として IAP に加盟しており、IAP 声明に関連する活動への参加、IAP プログラムの評価、IAC-IAP 共同プロジェクトへの積極的な参画、IAP 内委員会活動への参加、並びに IAP 総会・執行委員会等への代表者派遣など、その運営に積極的に協力してきている。

日本学術会議は、3 年任期の IAP 執行委員を 2 期務め、2009 年にその任期を完了する。

IAP は、3 年に一度総会を開催し、年に二度 IAP 執行委員会を開催しており、2008 年 9 月にオタワ (カナダ) にて開催された IAP 執行委員会に先立ち、2009 年秋の同執行委員会の開催について日本開催の可能性について打診を受けることとなった。

IAP が会費制を取らず、主にイタリア政府からの援助等により活動を行っており、現在では 100 程加盟メンバーを擁する巨大な国際学術団体であり、世界を代表する国際学術団体の一つとしてその活動が世界の科学者界のみならず、各国政府、そして一般社会に及ぼす影響力の大きさを鑑み、同組織の運営に関わる執行委員会の開催を日本学術会議が引き受けることは、IAP への日本学術会議の積極的な貢献となり、世界における日本学術会議のプレゼンスを高めるとともに、日本学術会議の国際活動に資するものとなる。

執行委員会のアジェンダ及び参加予定者についての資料を別添書類 (別添 1 及び別添 2) とする。



Venue: Science Council of Japan (SCJ)

15-16 September 2009

Agenda

Tuesday 15 September 2009:

11.00 – 13.00 Lunch

13.00 – 17.00 Meeting (including tea break)

13.00 - 13.10	Welcoming remarks	<i>TBC</i>
13.10 – 13.20	Opening remarks	Co-Chairs
13.20 – 13.25	Confirmation of previous EC minutes (AMSTERDAM)	Co-Chairs
13.25 – 13.35	Matters arising from the Minutes	Co-Chairs
13.35 – 13.55	Report on Activities	M.H.A. Hassan
13.55 – 14.15	Financial Report and Proposed Budget 2010	M.H.A. Hassan
14.15 – 14.45	IAP Statements	Co-Chairs
14.45 – 16.00	Report of Programmes and Strategic Planning Committee (incl. presentation of strategic plan II, proposals for funding in 2010,)	L. Casselton/T. Elliott
16.00 – 16.30	Report of Membership Committee (incl. presentation on draft pamphlet on IAP membership)	S. Pastrana
16.30 – 17.00	Report of Publications and Public Relations Committee	K. Lambeck

Evening Dinner

Wednesday 16 September 2009:

9.00 – 15.30 Meeting (including lunch and tea breaks)

9.00 – 9.15	Report of IAP/IAC Development Advisory Committee	<i>TBC</i>
9.15 – 9.30	Discussion on IAP/IAC Relations	Co-Chairs
9.30 – 9.50	Collaboration between IAP/IAC and the European Climate Foundation: Reports on Regional Workshops	Co-Chairs
9.50 – 10.20	2 nd IAP Young Scientists Conference/World Economic Forum	Co-Chairs
10.20 – 10.45	<i>Break</i>	
10.45 – 12.00	IAP Conference: January 2010	Co-Chairs

12.00 – 12.45	General Assembly: January 2010	Co-Chairs
12.45 – 14.00	<i>Lunch</i>	
14.00– 14.15	Short Status Reports (5 minutes each): IAC	<i>TBC</i>
	ICSU	<i>TBC</i>
	IAMP	<i>TBC</i>
14.15 – 14.25	Next EC meetings	Co-Chairs
14.25 – 14.35	Any Other Business	Co-Chairs
14.35 – 15.00	Conclusions	Co-Chairs
<u>15.30 – 17.30</u>	<u>Excursion</u>	

12/6/2009

EXECUTIVE COMMITTEE MEETING

Hosted by Science Council of Japan (SCJ)
15-16 September 2009

TENTATIVE LIST OF PARTICIPANTS for input from EC Members

MEMBERS

- Professor Howard Alper (**IAP Co-Chair**), Chair of the Government of Canada's Science, Technology and Innovation Council, and Foreign Secretary, RSC: The Academies of Arts, Humanities and Sciences of Canada
Email: howard.alper@uottawa.ca
- Professor Chen Zhu (**IAP Co-Chair**), Minister, Ministry of Health, P.R. China
Mr. Wang Zhenyu, Director, Division of International Organizations, Chinese Academy of Sciences
Email: zywang@cashq.ac.cn

Australian Academy of Science

Dr. Kurt Lambeck, President

Emails: nancy.pritchard@science.org.au, Kurt.Lambeck@anu.edu.au

Bangladesh Academy of Sciences

Professor M. Shamsher Ali, President

Emails: naiyyum@gmail.com, msali@seu.ac.bd, bas_bangladesh@yahoo.com

Academia Brasileira de Ciencias, Brazil

Professor Jacob Palis, President

Emails: hchaimo@usp.br, pdegoes@abc.org.br, gabifmello@gmail.com

Cuban Academy of Sciences

Dr. Ismael Clark Arxer, President/Dr. Sergio Jorge Pastrana, Foreign Secretary

Emails: clark@ceniai.inf.cu, pastrana@ceniai.inf.cu

Academy of Scientific Research and Technology (ASRT), Cairo

Professor Tarek Hussein, President

Emails: Asrt@Asrt.Sci.Eg, ashaalan@asrt.sci.eg, ashrafshaalan@hotmail.com

Union of German Academies of Sciences and Humanities

Professor Günter Stock, President

Emails: praesident-union@bbaw.de, Nicole.Hartmann@akademienunion.de

Science Council of Japan

Professor Ichiro Kanazawa, President

Emails: doi@doi.ics.keio.ac.jp, takeichi@mist.i.u-tokyo.ac.jp, i253 [a] s c j.go.jp,
yuki.sugawara [a] c a o.go.jp, fusae.tamiya [a] c a o.go.jp, noriko.nakamura [a] c a o.go.jp

Akademi Sains Malaysia

Professor Yusof Basiron, President/Dr. Ir. Ahmad Zaidee Laidin, Vice President

Email: nasa@akademisains.gov.my, shukri@akademisains.gov.my, azaidee@mmcogel.com.my

The Royal Netherlands Academy of Arts and Sciences

Professor Robbert Dijkgraaf, President

Emails: ed.noort@bureau.knaw.nl, Linda.Johnson@bureau.knaw.nl

Académie des Sciences et Techniques du Sénégal (ASTS)

Professor Souleymane Niang/Professor M. Alassane Dialy Ndiaye, Vice President

Emails: academ.sc@sentoo.sn, alassanedialyndiaye@hotmail.com

The Royal Society, UK

Lord Martin Rees/Professor Lorna Casselton, Foreign Secretary

Dr. Tracey Elliott, Head of International Policy

Emails: tracey.elliott@royalsociety.org, For.Sec@royalsoc.ac.uk, Frances.Hughes@royalsoc.ac.uk

EX OFFICIO

TWAS

Professor M.H.A. Hassan, Executive Director, TWAS

email: mhassan@twas.org

OBSERVERS

International Council for Science (ICSU)

Emails: secretariat@icsu.org, maureen@icsu.org, deliang.chen@icsu.org

InterAcademy Council (IAC)

Emails: j.campbell@iac.knaw.nl, secretariat@iac.knaw.nl, balberts@ucsf.edu

InterAcademy Medical Panel (IAMP)

Emails: dethe@pasteur.fr, iamp@twas.org

IAP SECRETARIAT

Ms. Joanna C.R. Lacey, Senior Project Assistant

InterAcademy Panel

email: iap@twas.org

As of: 11 June 2009

9	
幹事会	80

提 案

Eighth Meeting of the ICSU Regional Committee for Asia and the Pacific (第8回国際科学会議アジア太平洋地域委員会) の開催について

- 1 提 案 者 国際委員会委員長
- 2 議 案 標記会議を下記のとおり開催すること

記

1. 主 催 ICSU、日本学術会議
2. 日 程 平成21年11月25日(水)、26日(木) (別紙1参照)
3. 場 所 未 定
4. 出席者 ICSU Regional Committee for Asia and the Pacific 委員 (別紙2参照)
日本国内委員会 (国際委員会 ICSU 分科会委員) 等

5. 会議の目的

ICSU-RCAP (ICSU アジア太平洋地域委員会)は、ICSU アジア太平洋地域事務所に付置(2006年9月)された委員会であり、アジア太平洋地域全体の科学の発展を促進し、開発途上国の科学者の国際的な研究への参加を支援するための意見交換等を行うことを目的として、年2回各国持ち回りで開催されている。

日本からは、星元紀連携会員が設立当初から現在まで委員に就任している。

6. 開催意義

日本学術会議は、日本国の科学者の内外に対する代表機関として ICSU に加盟しており、その運営に積極的に協力してきている。2008年開催の第29回 ICSU 総会において、黒田玲子第3部会員が ICSU 副会長に選出され、ICSU における重要な役割を担うことになったことに伴い、これまで以上に積極的に貢献する必要がある。当該会議を日本で開催することは、ICSU への日本学術会議の積極的な貢献を内外に示し、世界における日本学術会議のプレゼンスを高めるとともに、日本学術会議の国際活動に資するものとなる。

さらに、アジア学術会議の事務局を務める日本学術会議として、アジア各国とのさらなる協力関係を構築する機会にもなる。

第8回 ICSU Regional Committee for Asia and the Pacific 日程(案)

November 25(Wed.)	November 26(Thu.)
8:30-9:00 歓迎、開会挨拶 9:00-9:15 RCAP新メンバー、オブザーバー紹介 (Bruce H Mckellar ICSU-RCAP議長) 9:15-9:20 アジェンダの採択 (Bruce H Mckellar ICSU-RCAP議長) 9:20-9:30 第7回RCAP決議 (Bruce H Mckellar ICSU-RCAP議長) 9:30-10:00 危険災害に関するICSU-ROAP科学計画のフォローアップ (Mohd Nordin Hasan / Patricia Ocampo-Thomason) 10:00-10:20 休 憩 10:20-10:50 持続可能なエネルギーに関するICSU-ROAP科学計画の フォローアップ (Derek Gardiner) 10:50-11:20 生態系の変化と社会に関するICSUプログラムへの ICSU-ROAPアクション計画 (Patricia Ocampo-Thomason / Mohd Nordin Hasan) 11:20-12:00 第3回ICSU地域協議会(2009年10月)の報告 (Bruce H Mckellar ICSU-RCAP議長 / Mohd Nordin Hasan) 12:00-13:30 昼 食 13:30-13:50 ICSU役員、地域ディレクター(ICSU地域事務所)会合の報告 (Bruce H Mckellar ICSU-RCAP議長 / Mohd Nordin Hasan) 13:50-14:15 科学団体との活動を通じた科学の増進 (Bruce H Mckellar ICSU-RCAP議長) 14:15-14:45 ICSUプログラムについての経過報告 (Patricia Ocampo-Thomason) a) 国際極年(IPY) b) 都市環境の変化における人類の健康と幸福(HHWCUE) c) アースシステムサイエンスパートナーシップ(ESSP)のレビュー d) 地球圏-生物圏国際協同研究計画(IGBP)のレビュー e) 気候変動国際協同研究計画(WCRP) 14:45-15:15 2010年度ICSU-ROAP予算案 (Mohd Nordin Hasan) 15:15-15:30 休 憩 15:30-16:00 ICSU委員会の経過報告 (Patricia Ocampo-Thomason) a) 第18回CSPR b) 第100回理事会 c) ICSUの社会科学への関与強化 d) 情報、データに関する戦略委員会 16:00-16:30 ICSU第2次戦略計画開発 (Patricia Ocampo-Thomason) 16:30 閉 会 閉会后 パンケット	8:30-9:15 ICSU-ROAP活動強化 a) 専門化データベースの開発 (M.C.N. Jayasuriya) b) ICSU-ROAP 2011年レビュー (Patricia Ocampo-Thomason) c) ナショナルメンバー及びユニオンの参加促進 (Bruce H Mckellar ICSU-RCAP議長 / Mohd Nordin Hasan) 9:15-9:30 その他 (Bruce H Mckellar ICSU-RCAP議長) 9:30-9:45 次回の委員会について (Bruce H Mckellar ICSU-RCAP議長) 9:45-10:00 閉会挨拶 (Bruce H Mckellar ICSU-RCAP議長) 閉会后 総合研究大学院大学及び国際連合大学高等研究所訪問

第8回 ICSU Regional Committee for Asia and the Pacific 委員

- ① Prof. Bruce Harold John Mckellar (Chair)
(Honorary Professorial Fellow, University of Melbourne)
- ② Prof. Motonori Hoshi
(Professor, The Open University of Japan)
- ③ Prof. Ali Akbar. Moosavi Movahedi
(Professor, Institute of Biochemistry and Biophysics, University of Tehran)
- ④ Prof. Zhang Kan
(Professor, Institute of Psychology, Chinese Academy of Sciences)
- ⑤ Prof. Mingsarn Kaosa-Ard
(Professor, Chiang Mai University , Thailand)
- ⑥ Dr. Marshall Jayasuriya
(Director, National Science Foundation)
- ⑦ Dr. Jaime Montoya
(Professor, the University of the Philippines)
- ⑧ Prof. Dr. Dewi Fortuna Anwar
(Research Professor, The Indonesian Institute of Sciences)
- ⑨ Prof. Hong Kum Lee
(Director-General, Korea Polar Research Institute (KOPRI))
- ⑩ Emeritus Prof. Mohd Nordin Hasan
(Emeritus Professor, Universiti Kebangsaan)
- ⑪ Prof. Patricia Ocampo-Thomason
(Science Officer (Regional Offices Liaison), International Council for Science (ICSU))
- ⑫ Prof. Muhamad Awang
(Professor, SEGi College)
- ⑬ Prof. A H Zakri (EB Liaison)
(Director, Centre for Global Sustainability Studies, Universiti Sains Malaysia)

※ ⑩～⑬は Ex-Officio。

1 0	
幹事会	8 0

提 案

サウジアラビア・アブドゥラ王立科学技術大学（KAUST）創立記念式典への会員の派遣

提 案 者 国際委員会委員長

議 案 標記について、日本学術会議から金澤一郎会長を派遣すること

提案理由 サウジアラビア・アブドゥラ王立科学技術大学（KAUST）よりの金澤会長宛標記式典への出席依頼を受け、2009年9月23日～24日にサウジアラビア（ジッダ）にて開催されるサウジアラビア・アブドゥラ王立科学技術大学（KAUST）創立記念式典にゲストとして金澤一郎会長を派遣することとしたため。式典の内容等については別添1を参照のこと。

June 17, 2009

Dr. Ichiro Kanazawa
The Science Council of Japan

Dear Dr. Ichiro Kanazawa,

It is my great pleasure to invite you and your spouse to the Inauguration Ceremony of the King Abdullah University of Science and Technology (KAUST) on 23rd September 2009. The event, to be held at the KAUST campus 80km north of Jeddah, Saudi Arabia, will be hosted by the Custodian of the Two Holy Mosques, King Abdullah ibn Abdulaziz Al Saud.

The realization of King Abdullah's decades-long dream, KAUST is a 21st century graduate research university. Dedicated to the pursuit of excellence in research and education, KAUST will advance and harness science and technology to take on challenges of regional and global importance. KAUST is open to talents from around the world, who bring with them big ideas, big ambitions, and aspirations for big impact built upon the energetic unity of bold research and learning through discovery. For more information, I invite you to visit the KAUST website at www.kaust.edu.sa

The day after the Inauguration Ceremony, 24th September, we will be conducting campus tours of KAUST. This will be an opportunity for you and your spouse to visit the research and community facilities which our faculty, students, and staff enjoy.

On behalf of King Abdullah, the Board of Trustees and KAUST Management, I hope you will be able to join our other invited guests, including heads of state as well as academic, scientific and business leaders from around the world, to witness King Abdullah declare KAUST open on 23rd September 2009. Our KAUST community looks forward to welcoming you to our campus on the shores of the Red Sea and your celebrating with us on this momentous occasion.

Yours sincerely,

Choon Fong SHIH

President, KAUST

1 1	
幹事会	8 0

提 案

第 2 回 IAP Conference for Young Scientists-2009 への会員の派遣

- 1 提 案 者 国際委員会委員長
- 2 議 案 標記について、下記のとおり承認すること。
- 3 提案理由 第 2 回 IAP Conference for Young Scientists-2009 に以下のとおり会員を派遣することとしたい。
- 4 派遣者 片山 浩之 (特任連携会員)
- 5 派遣期間 平成 2 1 年 9 月 9 日 (水) ～ 1 4 日 (月)
- 6 派遣場所 大連 (中国)
- 7 開催趣旨 若手科学者が自らの専門分野を越えて力を発揮するための研究計画を推進する能力、専門家だけでなく非専門家とも交流し、機関レベル、国家レベル、政策レベルに変化をもたらすための指導者としての能力を身につけるための方法を議論するための国際会議であり、IAPと夏季ダボス会議 (世界経済フォーラム主催) との共同プログラムとして昨年より開催されている。今年は ‘研究優先順位、並びに政府、企業、アカデミーの連携によるイノベーションを通じての社会的必要性への取り組み’ (Research Priorities and Government / Business / Academy Partnerships to Address Societal Needs through Innovation)、並びに ‘未来のイノベーターを創造するための科学教育’ (Science Education to Create the Innovators of the Future) をテーマとして、約 60 名の若手科学者を世界各地より招へいし、開催される。
8. 会議プログラムは別紙 1 を参照

Preliminary Programme

Thursday 10 September

09.00 - 10.15 IdeasLab

IdeasLab with Oxford University: Global Challenges

Join Oxford University for a creative look at global challenges.

09.00 - 10.00 Interactive Sessions

Asia's Economic Outlook

Asia's developing economies are estimated to average 3.4% growth in 2009 (versus 6.3% in 2008).

With exports accounting for nearly 50% of GDP, what is the economic outlook for the region in 2010?

09.00 - 10.00

Defining "Green"

There is no commonly shared definition of what "green" means to business and government.

How should "green" be defined, and how should it be measured and assessed?

09.00 - 10.00

What Is the Basis of a New Social Compact?

Collaborative governance, corporate responsibility and soft regulation were at the core of the social compact between business and society until the current economic crisis.

What shared values will underpin economic systems in the post-crisis world?

10.30 - 11.30 Interactive Sessions

Update on Global Risks

The H1N1 influenza outbreak earlier this year reminded the world that global risks can occur anywhere at anytime.

What are the global risks that need urgent attention, and how can we mitigate them?

10.30 - 11.30

Preparing for a Green Recovery

The United Nations Environment Programme (UNEP) is advocating the investment of 1% of global GDP (nearly US\$ 750 billion) in five sectors to revive growth and employment, and to address climate change and environmental degradation.

How can policy-makers and business leaders work together to deliver on this proposition?

11.15 - 12.30 IdeasLab

IdeasLab with Social Entrepreneurs: New Banking Models

Join Social Entrepreneurs in the IdeasLab for a creative look at the role of social banking.

11.45 - 12.45 Plenary Session in Parallel

Management Lessons from the Great Recession

Advanced economies experienced an unprecedented 7.5% decline in real GDP and emerging economies contracted by 4% in the fourth quarter of 2008, demonstrating the synchronized nature of the economic crisis.

What have been the most important management lessons from the downturn for global companies?

12.45 - 14.00 Buffet

Networking Lunch

14.00 - 15.15 IdeasLab

IdeasLab with Keio University: Digital Media and the Internet

Join Keio University in the IdeasLab for a creative look at digital media and the Internet.

14.00 - 15.00 Interactive Session

The Global Downturn and the Developing World

The World Bank estimates that a 1% decline in growth rates of developing countries traps an additional 20 million people in poverty.

As the global recession deepens, what measures can lessen the impact on the developing world?

Preliminary Programme

Thursday 10 September

14.00 - 16.30 Workspace

Maintaining an Innovative Edge Globally – Mandarin

Automotive, health and consumer electronic industries account for nearly 60% of private R&D spending globally – with over 50% of R&D investments occurring outside a company's home country.

How do industry-leading companies retain their innovative edge in different markets?

15.30 - 16.30 Interactive Sessions

Future Revolutions in Science

By forcing immediate changes in textbooks and curricula worldwide, paradigm shifts in science are often characterized as revolutionary.

What alternative theories, if proven true, will change science in profound ways?

15.30 - 16.30

Financing Global Growth: Time for a New Paradigm?

Governments – through guarantees, asset purchases and lending facilities – have provided over US\$ 8 trillion to support the banking sector.

As the rules of international finance are rewritten, how will companies fund future global growth?

17.00 - 18.00 Plenary Session

Welcome Remarks and Opening Plenary

Preliminary Programme

Friday 11 September

09.00 - 10.15 IdeasLab

IdeasLab with Chinese Universities: Post-Crisis China

Join Chinese university professors in the IdeasLab for a creative look at post-crisis China.

09.00 - 10.00 Interactive Session

Preventing the Next Great Backlash

The *Global Risk Report 2009* warns of dramatic deterioration of fiscal balances in G8 and other economies that will put major stress on healthcare and social security systems.

What are the implications for business and the global recovery process?

09.00 - 11.30 WorkSpace

Creative Destruction in the C-Suite

The write-down of assets in the US, Europe and Japan now totals nearly US\$ 4 trillion, a record-setting destruction of wealth.

How will corporate governance and compensation models fundamentally change in the post-crisis world?

10.30 - 11.30 Interactive Sessions

Asia's Foreign Currency Exposure: Buy, Hold or Sell?

China's proposal for the IMF to create a new reserve currency to lessen global reliance on the US dollar caught many in the financial world by surprise.

As concern builds over the future of the US dollar, how should Asia manage its nearly US\$ 4 trillion in foreign currency reserves in the near and long term?

10.30 - 11.30

Recalibrating Global Demand

Few prognosticators predicted the sub-prime collapse, and even fewer economists forecasted that global demand would fall so dramatically in the wake of the financial crisis.

What are the systemic risks, industry dynamics and normative changes affecting global demand today?

11.45 - 12.45 Interactive Session

Renewable Energy in the Developing World

Developing countries face increasing energy costs, but many are favourably endowed with renewable sources of energy such as solar, tidal, hydro, geothermal and biomass.

What renewable options present the greatest potential for growth, savings and employment for the developing world?

11.45 - 12.45 Plenary Session in Parallel

The Global Economic Outlook

The International Monetary Fund (IMF) projects that growth will return only next year at a sluggish 1.9% globally.

As fiscal and monetary options narrow, particularly in the West, what is the global economic outlook from Asia's vantage point?

12.45 - 14.00 Buffet

Networking Lunch

14.00 - 15.15 IdeasLab

IdeasLab with Massachusetts Institute of Technology: The Future of Cities

Join the Massachusetts Institute of Technology for a creative look at the future of cities.

14.00 - 15.00 Interactive Sessions

The Global Dimensions of China's Domestic Growth

China's GDP rose 6.1% in the first quarter of 2009, the slowest pace in a decade, but urban employment rose as 2.68 million jobs were created in the same quarter.

As China's stimulus package continues to take hold, how will it affect trade patterns, commodity markets and investment flows worldwide?

Preliminary Programme

Friday 11 September

14.00 - 15.00

Low-Carbon Growth: Who Is Making It Happen?

The final communiqué of the G20 Summit in London lacks clear guidance on how to best achieve low-carbon growth.

Which regions and cities have established "best in class" models on which the rest of the world can build?

14.00 - 16.30 **Workshop**

Mastering Collaborative Innovation

Semiconductor design, mobile content development and aircraft manufacturing are considered among the best examples of collaborative innovation that create tremendous value.

How are different S&T development models changing the concept of competitiveness?

14.00 - 16.30 **WorkSpace**

Stimulating Green Demand

Research on green consumers has shown that their commitment to greener lifestyles is sincere, but they tend to overstate their green behaviour, particularly concerning purchases.

How should products and services be designed and developed to stimulate greater green consumption?

15.30 - 16.30 **Interactive Sessions**

Clean Technologies and Business Models

Venture capital firms in the US, Europe, China and Israel poured a record US\$ 6 billion into "green tech" companies last year.

What are the game-changing technologies and business models that are attracting these investments?

15.30 - 16.30

Finding the New Shoots of Growth

As the global economy begins to exit from the deepest recession since World War II, the recovery is expected to follow a different path from those of recent memory.

What, and where, are the new drivers of growth?

15.30 - 16.30

Managing R&D in Tough Economic Times

Innovation champions, skunk works, science parks, technology incubators and government labs are all part of a growing lexicon associated with the management of R&D.

How can public and private sector R&D goals be achieved in a global economic downturn?

17.00 - 18.00 **Interactive Session**

Asia's Stimulus Strategy: Creating New Champions?

Japan plans to increase domestic demand by spending nearly US\$ 400 billion over three years, and China's stimulus package of US\$ 586 billion aims to increase consumption at home.

With nearly US\$ 1 trillion in the pipeline, which industries in Asia will emerge the strongest in the post-crisis world?

19.00 - 21.00 **Dinner**

Cultural Soirée

Hosted by the Dalian Municipal Government

Preliminary Programme

Saturday 12 September

09.00 - 10.15 IdeasLab

IdeasLab with INSEAD: Decision-Making and Leadership

Join INSEAD in the IdeasLab for a creative look at systemic decision-making and new leadership models.

09.00 - 10.00 Interactive Session

Getting Green Incentives Right

Governments around the world have committed more than US\$ 430 billion of fiscal stimulus to green infrastructure, but they also spend more than US\$ 300 billion each year on oil subsidies.

What policy innovations, pricing signals and financial vehicles are needed to ensure long-term, international and market-based green growth?

09.00 - 10.00

Success versus Survival in a Global Downturn

Companies that can increase profitability as well as enter new markets will not only get through the global recession but will also lead in the recovery.

How can firms build and brand their products and services not just to survive but also to thrive in the current economic environment?

09.00 - 11.30 WorkSpace

Maintaining an Innovative Edge Globally – English

Automotive, health and consumer electronics industries account for nearly 60% of private R&D spending globally – with over 50% of R&D investments occurring outside a company's home country.

How do industry-leading companies retain their innovative edge in different markets?

10.30 - 11.30 Interactive Sessions

Asia's New Role in Managing the Global Economy

Although Asia has over US\$ 3 trillion in currency reserves, the combined voting rights of Japan, China and India in the International Monetary Fund (IMF) are less than the US and less than half of EU member states.

As Asia's influence increases in the IMF, World Bank and World Trade Organization (WTO), how will it change the future mandate, leadership and management of such institutions?

10.30 - 11.30

Protecting Consumers in the Global Economy

Not all opposition to global trade can be attributed to protectionism, as consumers' concern over imports have increased significantly in the wake of safety issues linked to tainted food, drugs and toys.

In an era of global commerce, how can government and industry work together to ensure that poor product safety does not become a barrier to global trade?

10.30 - 11.30

Digital Growth Update

Experts predict that network traffic will increase by 50% and mobile data traffic will double each year until 2012.

Which technologies and business models will drive the next wave of digital growth?

11.15 - 12.30 IdeasLab

IdeasLab with Rensselaer Polytechnic Institute: Innovative Engineering

Join Rensselaer Polytechnic Institute in the IdeasLab for a creative look at innovative engineering.

11.45 - 12.45 Interactive Session

Eco-innovation: Going from Invention to Diffusion

The amount of clean tech patents are continually rising, with 928 US patents granted in 2008 and fuel cells leading the list along with new wind, hydroelectric, tidal and geothermal technologies.

What is needed to promote greater adoption and diffusion of green technologies across industries and countries?

11.45 - 12.45 Plenary Session in Parallel

Redesigning Asia's Growth Model

The steep decline in Asian exports – 27% in China, 44% in Taiwan, 35% in Singapore, 34% in South Korea – has raised alarms over the region's overdependence on export-driven growth.

What policy, industry and cultural shifts are needed to develop an alternative to Asia's export-driven growth model?

Preliminary Programme

Saturday 12 September

12.45 - 14.00 Buffet

Networking Lunch

14.00 - 15.15 IdeasLab

IdeasLab with the University of Tokyo: Sustainability

Join the University of Tokyo in the IdeasLab for a creative look at sustainability.

14.00 - 15.00 Interactive Session

Addressing the Employment Crisis

The International Labour Organization (ILO) forecasts that unemployment could rise by another 18 million to 30 million in 2009.

With the economic crisis profoundly transforming industries and markets, how can governments and business make sure the labour force is equipped with the skills to ignite the next wave of growth?

14.00 - 16.30 Workshop

Technology Pioneers: Generating the Next Wave of Change

Technological innovation, whether with large or small consequences, is an important step in society's attempt to change and improve the way business and society operate.

What future technologies may prove to be life-changing innovations?

15.30 - 16.30 Interactive Sessions

China, Japan and South Korea: Shifting the Power Equation Together?

The leaders of China, Japan and South Korea, representing nearly 17% of global GDP, met for a historic three-nation summit at the close of 2008.

As trilateral relations improve between China, Japan and South Korea, what are the strategic implications for trade, financial and investment flows worldwide?

15.30 - 16.30

Building a Sustainable Value Chain

The EU highlights that, if the rest of the world adopted European lifestyles, the resources of two and a half planets would be needed to support consumption.

As consumption trends towards sustainability in major economies, what will be the future business model for manufacturers and retailers in advanced and developing economies?

16.45 - 17.30 Plenary Session

Closing Plenary and Closing Remarks

17.30 - 19.00 Reception

Farewell Reception

Session Formats

The programme features a variety of session types designed to share insights, map issues and identify solutions among peers and important stakeholders.

Plenary-type sessions are designed to provide strategic insight and raise global awareness on important trends and themes. The aim is to expand the dialogue to engage all participants. Therefore, there are no prepared remarks, with most of the session conducted in a Q&A format. The sessions are open to the reporting press and are broadcast on the Internet.

Interactive and update sessions are not open to the reporting press, unless stated otherwise. No prepared remarks, only brief opening comments, are the norm. Most sessions are conducted in a Q&A format led by the moderator. The aim is to expand the discussion to all participants in the room.

Briefing sessions are designed to provide in-depth understanding of new or complex issues in various domains. Discussion leaders are not only considered experts on the topic, but are also able to explain key concepts to a lay audience.

Workshop sessions are designed to promote greater interaction between discussion leaders and participants on a compelling challenge or complex issue. They are facilitated group discussions that focus on providing structured interventions from discussion leaders, capturing direct feedback from participants and building consensus on priorities and solutions.

WorkSpace sessions are designed to provide the highest level of interaction and collaboration among participants. A special environment is created to encourage collaborative and creative solutions to compelling and often complex issues. A facilitator, together with a team of knowledge workers, guides participants through a variety of design-oriented tasks. The knowledge shared and solutions created are then summarized in a brief report. The report and related creative output are posted on a special website for future use.

The **IdeasLab** is a highly engaging session format where ideas, innovations, trends and concepts are presented using a creative presentation format (*pecha kucha*). Facilitated group discussions explore the challenges and opportunities that arise from implementing the ideas presented.

Networking lunches provide an opportunity for the various communities of the World Economic Forum to meet in an informal setting. Participants are encouraged to contact each other in advance, and therefore are asked to provide contact details before the meeting. The information is made available on the private area of the website for registered participants at <http://www.weforum.org/newchampionsprivate>.

1 2	
幹事会	8 0

提 案

平成 2 1 年度日本・カナダ女性研究者交流事業実施要綱について

- 1 提 案 者 国際委員会委員長
- 2 議 案 標記について、別紙案のとおり承認すること。
- 3 提案理由 日本学術会議会則第 3 条第 1 項第 3 号の国際活動として
平成 2 1 年度日本・カナダ女性研究者交流事業を行うこと
とし、実施要綱を別紙のとおり策定したい。

《参考》 日本学術会議会則（抜粋）

（国際活動）

第三条 学術会議は、法第六条の二に定める国際団体への加入のほか、法第三条第二号の職務として、次に

掲げる国際活動を行うことができる。

一 学術に関する国際会議等への代表の派遣

二 学術に関する国際会議の主催及び後援

三 二国間学術交流

四 アジア学術会議に関すること。

五 その他会長が必要と認めるもの

平成21年度日本・カナダ女性研究者交流事業実施要綱（案）

平成21年〇月〇〇日
日本学術会議第〇〇回幹事会決定

1. 目的

本事業は、日本・カナダ両国の優れた若手の女性研究者の相互訪問を通じて、幅広く科学技術・学術分野における女性の活躍を促進することを目的とする。

2. 事業の内容

- (1) 当該女性研究者は相手国の大学や研究機関等を訪問し、専門分野における最近の研究動向等について情報交換する。
- (2) 初等中等教育段階の学校（小学校、中学校、高校）を訪問し、自らの研究活動や研究者としての経験について紹介しつつ、生徒との交流を行う。
- (3) 帰国後報告会を設け、両国の研究環境や教育環境の違い、双方の優れた点や検討すべき点等について、直に触れることにより得た知見を報告する。

3. 実施計画

21年度は、カナダ側からの派遣の受け入れ及び日本からカナダへの女性研究者の派遣を行う。滞在期間はいずれも1週間から10日間程度を目安とする。

カナダ側から派遣受け入れ（1名） 21年11月頃

日本からカナダへの派遣（2名） 21年10月～22年3月頃

※人数及び時期はいずれも予定

4. 実施体制

(1) 実施体制

日本とカナダが共同で実施。

日本側 : 日本学術会議

カナダ側 : 在日カナダ大使館、カナダ王立協会、カナダ保健研究機構、カナダ自然科学・工学研究審議会

(2) 事務分担

①カナダ側からの派遣者	旅費	カナダ側が負担
	滞在費	日本学術会議が負担
	受入事務	日本学術会議
②日本からカナダへの派遣	旅費	日本学術会議が負担
	滞在費	カナダ側が負担
	受入事務	カナダ王立協会

5. 派遣者の選定

ホームページ上で公募を行う。国際委員会日本・カナダ女性研究者交流分科会による審査の上、2名の派遣者を選定。（募集要項等の詳細については、分科会にて定める）

6. その他

日本学術会議における本事業の庶務は、日本学術会議事務局各課・参事官の協力を得て、参事官（国際業務担当）において処理する。

13	
幹事会	80

提 案

平成21年度代表派遣実施計画の変更について

- 1 提案者 会 長
- 2 議 案 標記について、別紙のとおり決定すること。
- 3 提案理由 「日本学術会議の行う国際学術交流事業の実施に関する内規」第21条の規定に基づくものである。

<参考>「日本学術会議の行う国際学術交流事業の実施に関する内規」(抄)

(派遣実施計画の変更等)

- 第21条** 関係委員長は、幹事会で承認された派遣実施計画若しくは派遣者の変更をすべき事情が生じた場合は、その理由を付して速やかに会長に通知しなければならない。
- 2 会長は、前項の規定による通知があった場合は、理由を付して改めて幹事会の承認を得るものとする。ただし、やむを得ない事由により事前に幹事会の承認が得られない場合は、事後に追認を求めるものとする。

別紙

会議名称	派遣期間（会期分）	開催地（国）	派遣者	変更内容	変更理由
国際生物科学連合（IUBS）第30回総会	10月10日～10月13日	ケープタウン （南アフリカ）	2名	会議（第1区分） の追加	急速会議開催が決定等の ため

1 4	
幹事会	8 0

提 案

平成 2 1 年度代表派遣について（平成 2 1 年 1 0 月～1 2 月分）

- 1 提 案 者 会 長
- 2 議 案 標記について、別紙のとおり実施すること。
- 3 提案理由 「日本学術会議の行う国際学術交流事業の実施に関する内規」第 19 条の規定に基づくものである。

<参考>「日本学術会議の行う国際学術交流事業の実施に関する内規」（抄）

（派遣者の選考）

- 第 1 9 条** 会長及び関係委員長は、幹事会で承認された派遣実施計画に基づき、代表を派遣すべき会議等（以下「代表派遣会議」という。）のそれぞれの内容等に応じて、学術会議会員（以下「会員」という。）の中から適任者を選考し、様式第 7 に定める代表派遣会議候補者推薦書により派遣候補者を会長に推薦するものとする。ただし、学術会議連携会員（以下「連携会員」という。）の中に適任者があると認められる場合は、その者を候補者として推薦することができる。
- 2 会長は、前項の規定により推薦された派遣候補者について、原則として代表派遣会議が開始される日の 1 か月前までに開かれる幹事会の議決を経た上、学術会議の代表として派遣される者（以下「派遣者」という。）として派遣するものとする。

番号	国際会議等	会 期		開催地及び用務地	派遣候補者 (職名)	備考
			計			
1	第19回国際栄養学会議	10月4日 ～ 10月9日	6 日	バンコク	宮澤 陽夫 特任連携会員 東北大学大学院農学研究科	IUNS分科会 第1区分
		タイ		ケープタウン		
2	国際生物科学連合(IUBS)第30回総会	10月10日 ～ 10月13日	4 日	南アフリカ ケープタウン	西田 治文 連携会員 中央大学教授	IUBS分科会 第1区分
		10月10日 ～ 10月13日		南アフリカ ケープタウン		
3	国際生物科学連合(IUBS)第30回総会	10月10日 ～ 10月13日	4 日	南アフリカ ケープタウン	武田 洋幸 特任連携会員 東京大学教授	IUBS分科会 第1区分
		10月10日 ～ 10月13日		南アフリカ ケープタウン		
4	地球倫理学国際セッション	10月12日 ～ 10月16日	5 日	ブリブラム	西脇 二一 特任連携会員 奈良大学	IUGS分科会 特別派遣
		10月12日 ～ 10月16日		チェコ 水原		
5	東・東南アジア土壌科学連合第9回国際会議	10月13日 ～ 10月16日	4 日	韓国	安藤 豊 特任連携会員 山形大学農学部	IUSS分科会 特別派遣
		10月13日 ～ 10月16日		韓国		
6	2009年度海洋研究科学委員会(SCOR)執行理事会	10月20日 ～ 10月22日	3 日	北京	池田 元美 特任連携会員 北海道大学大学院地球環境科学研究院	SCOR分科会 第2区分
		10月20日 ～ 10月22日		中国 クエート		
7	世界工学団体連盟(WFEO)2009総会	11月2日 ～ 11月6日	5 日	クエート	石井 弓夫 特任連携会員 株式会社建設技術研究所	WFEO分科会 第1区分
		11月2日 ～ 11月6日		クエート		
8	第24回国際地図学会議	11月15日 ～ 11月21日	7 日	サンチアゴ	熊木 洋太 連携会員 専修大学	ICA分科会 第2区分
		11月15日 ～ 11月21日		チリ		
9	第24回国際地図学会議	11月15日 ～ 11月21日	7 日	サンチアゴ	森田 喬 連携会員 法政大学	ICA分科会 第2区分
		11月15日 ～ 11月21日		チリ		
10	国際社会科学団体連盟(IFSSO)総会	11月21日 ～ 11月23日	3 日	チェンマイ	小松 照幸 連携会員 名古屋学院大学准教授	AASSREC/IFSSO分科会 第1区分
		11月21日 ～ 11月23日		タイ		
11	国際社会科学団体連盟(IFSSO)総会	11月21日 ～ 11月23日	3 日	チェンマイ	西原 和久 特任連携会員 名古屋大学教授	AASSREC/IFSSO分科会 第1区分
		11月21日 ～ 11月23日		タイ		

15	
幹事会	80

提 案

中部地区会議の関係大学事務局の変更について

- 1 提 案 者 科学者委員会委員長
- 2 議 案 標記について、以下のとおり決定すること
- 3 提案理由 平成19年9月20日開催の日本学術会議第42回幹事会において決定された「日本学術会議地区会議運営要綱」の「第6」の規定に従い（別紙参照）、平成21年7月3日開催の中部地区会議運営協議会で決定された代表幹事の交替（参考参照）に伴い、平成21年8月1日から中部地区会議の関係大学事務局を中部大学から名古屋大学に変更するもの。

（参考）

平成21年7月3日開催の中部地区会議運営協議会で決定された代表幹事の交替

	新代表幹事	旧代表幹事
氏 名	巽 和行	後藤 俊夫
区 分	第三部会員	第三部会員
所属・職名	名古屋大学物質科学国際研究センター教授(センター長)	中部大学副学長
任 期	巽教授の会員としての任期と同じ平成26年9月30日まで	
交替時期	平成21年8月1日から	

●日本学術会議地区会議運営要綱（抄）

平成 17 年 10 月 4 日
日本学術会議第 1 回幹事会決定

改正 平成 17 年 11 月 24 日日本学術会議第 5 回幹事会決定

平成 18 年 2 月 23 日日本学術会議第 9 回幹事会決定

平成 19 年 9 月 20 日日本学術会議第 42 回幹事会決定

（前略）

（地区会議運営協議会及び事務局）

第 6 各地区に地区会議運営協議会を置き、当該地区の運営及び活動に関する事項を審議・決定する。

2 各地区に所属する会員は、互選により 9 名以内の地区会議運営協議会委員を選出する。その際、委員が特定の部に偏らないように配慮する。ただし、地区会議運営協議会から科学者委員会に要請があった場合は、科学者委員会及び幹事会の議を経て、当該地区に所属する会員又は連携会員の中から地区会議運営協議会委員を追加することができる。なお、委員の追加を認める場合も地区会議運営協議会の委員総数は 12 名を超えないものとする。

3 地区会議運営協議会は、互選により会員である委員の中から代表幹事 1 名を選出する。代表幹事は各地区会議運営協議会を主宰する。

4 各地区における地区会議運営協議会委員及び代表幹事の選出手続きは、構成員の規模等を考慮して、各地区で定め、科学者委員会の下承を得るものとする。

5 地区会議の活動に関する事務を処理するため、幹事会が決定する関係大学事務局に地方連絡委員を置く。それに対応して日本学術会議事務局内にも地方連絡委員を置く。地方連絡委員は、各地区の構成員等との連絡調整を密にするものとする。

（後略）

16	
幹事会	80

提 案

公開シンポジウム「ブダペスト宣言から10年：過去・現在・未来
—社会における・社会のための科学を考える—」の開催について

1. 提案者 大垣副会長
2. 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

1. 主 催：日本学術会議、(独) 科学技術振興機構、文部科学省、
(独) 日本学術振興会、日本ユネスコ国内委員会
2. 日 時：平成21年9月9日(水) 13:00～17:10
3. 場 所：日本学術会議講堂

4. 開催の趣旨：

2009年11月、ハンガリー・ブダペストにて、ブダペスト宣言10周年を記念した世界科学フォーラム(World Science Forum "Knowledge and Future": ハンガリー科学アカデミー、ユネスコ、国際科学会議(ICSU)、欧州連合(EC)の共催)が開催される。これに先立ち、ブダペスト宣言以降10年の科学と社会の関係、そしてこれからの科学のあり方を、学术界、政策立案者、企業、市民等により議論すべく、9月9日(水)、公開シンポジウム「ブダペスト宣言から10年-過去・現在・未来-社会における・社会のための科学を考える」を開催する。

本シンポジウムは11月にハンガリーにて開催されるWorld Science Forumの関連行事として位置づけられている。

5. 次 第(都合により変更の可能性あり)

13:00～13:05	主催者挨拶	金澤一郎 日本学術会議 会長
13:05～13:15	来賓挨拶	相澤益男 総合科学技術会議 議員
13:15～13:35	特別講演	吉川弘之 JST研究開発戦略センター長

(元ICSU会長)

13:35～13:55 特別講演 Dr.Norbert Kroóハンガリー
科学アカデミー副会長

13:55～14:05 ビデオメッセージ 松浦晃一郎 ユネスコ 事務局長

14:05～14:25 特別講演 Yuan Tseh Lee 台湾中央研究所
名誉委員長兼特別招聘研究員
次期国際科学会議会長

14:25～14:45 特別講演 佐藤禎一 東京国立博物館長
／元ユネスコ代表部特命全権大使

14:45～15:00 休憩

15:00～17:00 パネルディスカッション
司会：大垣眞一郎 実行委員長
(日本学術会議 副会長)
＜パネリスト＞

15:00～15:10 黒田玲子 国際科学会議 副会長
(日本学術会議会員)

15:10～15:20 鈴木興太郎 日本学術会議 副会長

15:20～15:30 文部科学省 (未定)

15:30～15:40 高橋真理子 朝日新聞社 記者
日本科学技術ジャーナリスト会議 理事

15:40～15:50 有信睦弘 株式会社東芝 顧問

15:50～16:00 崎田裕子 環境ジャーナリスト

16:00～16:40 質疑応答

16:40～16:50 まとめ 大垣眞一郎 実行委員長
(日本学術会議副会長)

16:50～17:00 世界科学フォーラム2009へのメッセージ
金澤一郎 日本学術会議 会長

17:00～17:10 閉会挨拶 北澤宏一
(独)科学技術振興機構 理事長
(日本学術会議会員)

17	
幹事会	80

提 案

公開シンポジウム「人材育成のグローバルアプローチ」の開催について

1. 提案者 歯学委員会委員長
2. 提 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

1. 主 催：日本学術会議歯学委員会基礎系歯学分科会、歯科基礎医学会
2. 日 時：平成21年9月11日（金）9：30～11：30
3. 場 所：朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター
〒950-0078 新潟市中央区万代島6-1
4. 分科会：前日（9月10日）に分科会を開催
5. 開催趣旨：
医学において生体の機能を明らかにし、それぞれの疾患のメカニズムを旭介することが必要であり、これにより新しい医療技術を開発することが可能となる。そのためには基礎医学の研究が活発に行われることが必要不可欠である。しかしながら近年基礎歯科医学の研究を志す人材が減少をたどっており、このことは将来の基礎歯科医学はもちろん歯科医学全体の発展に支障をきたすことは明らかである。そこで日本学術会議歯学委員会基礎系歯科分科会では、基礎歯科医学の人材育成に関して、2007年度に「基礎歯科医学の現状と未来」、2008年度には「基礎歯科医学の人材育成」と題してシンポジウムを歯科基礎医学会学術大会において開催してきた。
本年度は、今まで2回のシンポジウムを基に、アメリカ、英国の研究者育成システムを紹介しながら如何に世界に通用する基礎歯科医学研究者の育成をすべきかを歯科基礎医学研究にたずさわる大学院生、若手研究者、指導者とともに考えたい。
6. 次第：

座長 米田俊之（日本学術会議会員）
上西秀則（歯科基礎医学会理事長）
前田健康（日本学術会議連携会員、第51回歯科基礎医学会学術大会会頭）

1. 主催者（日本学術会議）の挨拶
米田俊之（日本学術会議会員、同歯学委員会基礎系歯学分科会委員長、
大阪大学大学院歯学研究科教授）
2. 今後の歯科医学教育の充実について（30 分）
新木一弘（文部科学省高等教育局医学教育課長）
3. ミシガン大学における大学院口腔健康科学コースについて（40 分）
(Oral Health Science Training Program at the University of Michigan)
Jan CC Hu, Charlotte M Mistretta(ミシガン大学歯学部)
4. 口腔科学の研究普及と如何に研究のインパクトを高めか（40 分）
(Research Dissemination and Maximising Its Impact)
Anthony J Smith（バーミンガム大学歯学部）
5. 総合討論（20 分）
6. 閉会の挨拶
前田健康（日本学術会議連携会員、第 51 回歯科基礎医学会学術大会会頭、
新潟大学大学院医歯学総合研究科教授）
7. 関係部の承認の有無：第二部承認

1 8	
幹事会	8 0

提 案

公開シンポジウム「遺伝子組換え植物研究の現状と課題」の開催について

1. 提案者 基礎生物学委員会委員長、応用生物学委員会委員長、農学委員会委員長
2. 提 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること

記

1. 主 催：日本植物学会、日本学術会議基礎生物学委員会・応用生物学委員会・農学委員会合同 植物科学分科会
2. 日 時：平成21年9月17日（木）13：00～15：30
3. 場 所：山形大学地域教育文化学部B棟B31教室

4. 開催趣旨：

我が国では、遺伝子組換え植物を用いた基礎研究は極めて活発であり、多くの優れた研究成果が出ているものの、我が国で開発された遺伝子組換え植物について野外試験実施例や実用化事例は極めて少ない。植物科学の今後の発展のために、そのような現状を多くの植物科学研究者が認識・共有し、関係者全員で解決策を探り、研究環境整備や社会受容促進等を実行することが強く求められている。日本学術会議においても、植物科学分科会をはじめとする複数の分科会でこの点が議論されており、植物科学分科会では、「我が国における遺伝子組換え植物研究とその普及に関する現状と問題点」（仮題）と題する報告書がまとめられつつある。そこで、遺伝子組換え植物研究に関する我が国の現状と課題について、関係者全員で情報を共有し、研究環境整備、社会受容を促進するための具体的方策等について討論する。

5. 次第

13：00－13：10 挨拶

福田 裕穂（東京大学教授、日本学術会議連携会員）

13：10－13：35 講演1

「遺伝子組換え植物研究を巡る日本および世界の現状」

鎌田 博（筑波大学教授、日本学術会議連携会員）

13：35－14：00 講演2

「遺伝子組換え植物と生物多様性影響評価」

伊藤 元巳（東京大学教授）

14：00－14：25 講演3

「遺伝子組換え食品の安全性評価」

手島 玲子（国立医薬品食品衛生研究所代謝生化学部長）

14：25－14：50 講演4

「遺伝子組換え食品の安全性評価」

小野 道之（筑波大学准教授）

14：50－15：30 総合討論

・座長

福田 裕穂（東京大学教授、日本学術会議連携会員）

・パネリスト

鎌田 博（筑波大学教授、日本学術会議連携会員）

伊藤 元巳（東京大学教授）

手島 玲子（国立医薬品食品衛生研究所代謝生化学部長）

小野 道之（筑波大学准教授）

河野 重行（東京大学教授、日本学術会議連携会員）

6. 関係部の承認の有無：第二部承認

19	
幹事会	80

提 案

「国際電波科学連合公開シンポジウム－環境・エネルギーと電波科学－」 の開催について

1. 提案者 電気電子工学委員会委員長
2. 提 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

1. 主 催 日本学術会議 電気電子工学委員会 URSI 分科会
2. 共 催 なし
3. 後 援 富山県、富山市、富山県教育委員会、富山市教育委員会、富山大学、
富山県立大学、富山工業高等専門学校・富山商船高等専門学校
4. 日 時 平成21年10月3日（土）13：00～17：20
5. 場 所 富山国際会議場 〒930-0084 富山市大手町1番2号
Tel：076-424-5931、Fax：076-493-7170
URL：<http://www.ticc.co.jp/>
6. 分科会の開催 なし
7. 開催趣旨

国際電波科学連合（International Union of Radio Science：URSI）と電子情報通信学会の共同主催により、国際会議「2010年アジア・太平洋電波科学会議」（2010 Asia-Pacific Radio Science Conference：AP-RASC'10）が平成22年9月22日～25日に富山市で開催されます。この国際会議は、電磁波伝搬・計測から環境電磁工学、エレクトロニクス、フォトニクス、地球、宇宙、天文、生体を含む広範な分野にわたる電波科学の研究領域において、アジア・太平洋地域を中心とした研究者が一堂に会して研究発表並びに情報交換を行う国際的な場を提供し、この地域における電波科学研究の一層の活性化と発展に資することを目的としています。国際会議 AP-RASC'10 の開催は、電波科学分野におけるわが国の国際貢献だけでなく、富山県における科学技術の振興や有能な人材の育成という観点からも、非常に有意義なことであるといえます。なお、この国際会議の開催には、日本学術会議 URSI 分科会が深く関わっています。

この度、日本学術会議 URSI 分科会では、国際会議 AP-RASC'10 を成功させるため、関連事業として、「国際電波科学連合公開シンポジウム」を企画しました。このシンポジウムでは、富山県内の中学校・高等学校の生徒および工業高等専門学校の学生を主な対象として、電波科学の最前線で活躍する研究者が「現在および今後脚光を浴びる重要な科学・技術における課

題」を論じ、未来を担う若者に科学技術の世界を紹介するものです。

8. 次 第

- 13:00-13:05 開会あいさつ
岡田 敏美（富山県立大学工学部教授、日本学術会議特任連携会員）
- 13:05-13:15 国際電波科学連合およびアジア・太平洋電波科学会議の任務と課題
小林 一哉（中央大学理工学部教授、日本学術会議特任連携会員）
- 13:15-14:05 記念講演「電波科学と太陽宇宙発電システム開発」
橋本 弘藏（京都大学生存圏研究所教授）
- 14:05-14:30 安全・安心のためのミリ波パッシブイメージング技術
水野 皓司（東北大学名誉教授・電気通信研究所客員教授）
- 14:30-14:55 未来の携帯電話
山口 良（(株)NTT ドコモ先進技術研究所主任研究員）
- 14:55-15:10 休 憩
- 15:10-15:35 宇宙から地球を見る－マイクロ波リモートセンシング－
古濱 洋治（元 宇宙航空研究開発機構理事）
- 15:35-16:00 電波伝搬特性の世界的な予測－無線システム信頼性の確保－
細矢 良雄（北見工業大学名誉教授）
- 16:00-16:25 地中を見るレーダー遺跡から地雷まで－
佐藤 源之（東北大学東北アジア研究センター長）
- 16:25-16:50 人工衛星「かぐや」による月探査の成果
熊本 篤志（東北大学大学院理学研究科准教授）
- 16:50-17:15 電波による地球環境計測
石井 守（情報通信研究機構電磁波計測研究センター推進室長）
- 17:15-17:20 閉会あいさつ
岡田 敏美（富山県立大学工学部教授、日本学術会議特任連携会員）

参加申込方法

E-mail または Fax にて、必要事項（氏名、所属、連絡先電話番号、E-mail アドレス）をご記入のうえ、以下までお申し込みください。

国際電波科学連合公開シンポジウム実行委員会

委員長 岡田敏美（富山県立大学教授）

Tel/Fax : 0766-56-8137

E-mail : okada@pu-toyama.ac.jp

*定員（400 名）となり次第、締め切りとさせていただきます。

9. 関係部の承認の有無 第三部承認

10. その他 参加費無料

20	
幹事会	80

提 案

公開シンポジウム

「生物多様性に関する学術と社会の対話フォーラムの一年前プレフォーラム」 の開催について

- 1 提案者 応用生物学委員長
- 2 表記シンポジウムを下記の通り開催すること

記

1. 主催 日本学術会議応用生物学委員会、生物多様性条約第10回締約国会議支援実行委員会
2. 後援 環境省
3. 日時 平成21年10月12日16:00～18:30
4. 場所 名古屋国際会議場（名古屋市熱田区）
5. 委員会の開催 同日委員会を開催
6. 開催趣旨

2010年に名古屋市で生物多様性条約第10回締約国会議が開催されることが予定されており、それにむけて、市民、企業など、多様な主体の会議への参加・支援への意識が高まりつつある。一方で、急速に深刻化する生物多様性の危機に適切に対処し持続可能性を確保するため、生物多様性配慮を社会各層の営み（土地利用、産業活動、消費活動など）に浸透させることが課題となっている。しかし、社会階層のいずれにおいても、そのために必要な理解やリテラシーは、必ずしも十分に醸成されているとはいえない。開催予定地では、「取組に対する意欲を持つが故の疑問・悩み」も生じているという。そこで、学術分野において従来から生物多様性に深いかかわりをもってきた研究者をはじめとする広範な分野の研究者と社会の多様な主体のあいだで、活発に経験・情報を交流する場を設けることの意義は大きいものと思われる。統合生物学分野は生物多様性ともっともかかわりが深い学術領域である。本公開講演会は、わが国で開催されるCOP10にむけた学術と社会の交流のフォーラム（2010年8月に名古屋で公開講演会として開催を予定）の一年前のプレフォーラムとして開催する。来年の本フォーラムに向けた多様な主体の活発な情報交流の場として重要な役割を

果たすことが期待される。

7. 次第

16:00－16:10 開催の挨拶 鷺谷いづみ（第二部会員、応用生物学委員会委員長）

16:10－16:15 挨拶 生物多様性条約第10回締約国会議支援実行委員会

16:10－17:30 第一部：パネルディスカッション：セクター間対話に向けて

司会：涌井史郎（造園系、中部大学）

パネラー：

学術分野から 鷺谷いづみ（東京大学教授、日本学術会議 第二部会員）

林 良嗣（名古屋大学教授 日本学術会議連携会員）

香坂 玲（名古屋市立大学准教授）

NGO/NPO から 2名

企業関係から 2名

17:30-18:30 第二部：統合生物学学術領域からの発信－生物多様性研究の最前線

司会：鷺谷いづみ（東京大学教授、日本学術会議 第二部会員）

プレゼンター：

生態科学 松本忠夫（放送大学教授、日本学術会議連携会員）

自然人類学 斎藤成也（国立遺伝学研究所教授、日本学術会議第二部会員）

生物行動学 長谷川真理子（総合研究大学院大学教授、日本学術会議連携会員）

自然史・古生物学 北里洋（海洋研究開発機構領域長、日本学術会議第三部会員）

進化認知行動学 長谷川寿一（東京大学教授、日本学術会議第一部会員）

バイオインフォマティクス 美宅成樹（名古屋大学教授、日本学術会議連携会員）

7. 関係部の承認の有無：第二部承認

2 1	
幹事会	8 0

提 案

公開シンポジウム「健康価値を創造するライフスタイル—2 1 世紀の公衆衛生活動のあり方を求めて」の開催について

1. 提案者 臨床医学委員会委員長、健康・生活科学委員会委員長
2. 提 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

1. 主 催：日本学術会議臨床医学委員会・健康・生活科学委員会合同生活習慣病対策分科会、日本公衆衛生学会
2. 日 時：平成2 1 年1 0 月2 3 日（金）1 3：3 0～1 6：0 0
3. 場 所：奈良県文化会館
〒630-8213 奈良県奈良市登大路町 6-2
4. 分科会：当日分科会を開催
5. 開催趣旨：
ライフスタイルを決定する環境の重要性について、睡眠、運動、ストレス、栄養など主要生活習慣の形成と変容のダイナミクスとして、その支援実践としての保健看護、健康法体系の新しい質創造などを含めて、包括的に議論し2 1 世紀の心豊かな生き様（Q O L）を支える健康価値創造の理論と実践のあり方を探りたい。
6. 次第：

座長
森本兼囊（日本学術会議連携会員、同臨床医学委員会・健康・生活科学委員会合同生活習慣病対策分科会委員長、日本医学会幹事）
松澤佑次（日本学術会議会員、同臨床医学委員会・健康・生活科学委員会合同生活習慣病対策分科会副委員長、住友病院院長）

 1. 座長の挨拶 はじめに 公衆衛生活動における健康価値創造（15 分）
森本兼囊（日本学術会議会員、大阪大学大学院医学系研究科・環境医学）

2. 幼少期が決めるライフスタイル (25 分)

児玉浩子 (日本学術会議連携会員、帝京大・医・小児科)

3. 病と健康の質 (25 分)

正木治恵 (日本学術会議連携会員・千葉大院・看護学・研究科長))

4. 睡眠障害と Quality-of-Life (25 分)

大川匡子 (日本学術会議連携会員、滋賀医大・睡眠学)

5. ストレスと運動の実践的ダイナミクス (25 分)

下光輝一 (日本学術会議連携会員、東京医大・衛生公衆衛生学)

6. 健康栄養実践と公衆衛生活動 (25 分)

徳留信寛 (日本学術会議連携会員、健康・栄養研究所・理事長)

7. コメント

(1) 保健看護活動からみたライフスタイルの意味するもの (15 分)

金川克子 (日本学術会議連携会員、神戸市立看護大・学長)

(2) 健康価値創造に向けた立法活動のありかた (15 分)

梅村聡 (参議院議員)

8. おわりに 環境が決めるライフスタイルの重要性 (15 分)

松澤佑次 (日本学術会議会員、同臨床医学委員会・健康・生活科学委員会合同生活習慣病対策分科会副委員長・住友病院院長)

7. 関係部の承認の有無：第二部承認

2 2	
幹事会	8 0

提 案

公開シンポジウム「明日の海と食を守る水産海洋サステナビリティ学」 の開催について

1. 提案者 農学委員会委員長、食料科学委員会委員長
2. 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

1. 主 催：日本学術会議農学委員会 PSA 分科会・食料科学委員会水産学分科会、
北海道大学大学院水産科学研究院
2. 日 時：平成21年11月7日（土）10：00～17：00
3. 場 所：北海道大学大学院水産科学研究院（函館キャンパス大講義室）
（函館市港町3－1－1）
4. 開催趣旨：
水産資源は、人類にとって再生可能なサステナブルな資源のはずであるが、前世紀末から乱獲による漁業資源の減少や養殖による沿岸生態系の攪乱と食品安全性への不安という種々の課題を呈するようになってきた。本シンポジウムでは、海洋生態系と水産食料に関する世代間を越えてニーズを満足させる「世代間衡平性」を確実なものとする「明日の海と食を守る」ため、国際的な協調に向けた環太平洋の研究教育ネットワークの構築を模索することを目的とする。最新の情報を収集するとともに、公開シンポジウムにおいて活発に論議することによって、政府・国民に提言を行うための貴重な情報・資料としたい。
5. 分科会の開催：未定

6. 次 第：

10:00～10:05 開会挨拶

原 彰彦（北海道大学大学院水産科学研究院長・教授）

10:05～11:55 基調講演

- (1) 世界の持続可能な水産科学の行方

Rashid Sumaila (ブリテッシュ・コロンビア大学 Fisheries Center 所長・教授)

- (2) 生態系を基本とした漁業管理と気候変動

Chang Ik Zhang (釜慶大学教授)

昼食 (60 分間)

13:00～15:00 一般講演

- (1) アラスカ漁業とエコ・ラベル MSC

William Smoker (アラスカ・フェアバンクス大学)

- (2) 海洋生態系の保全と水産業

桜井 泰憲 (北海道大学大学院水産科学研究院教授)

- (3) 水産食資源を守る

吉水 守 (北海道大学大学院水産科学研究院教授)

- (4) 水産食資源の持続可能性と海洋生態系

帰山 雅秀 (日本学術会議特任連携会員、北海道大学大学院水産科学研究院教授)

休憩 (30 分)

15:30～16:55 パネルディスカッション「世界の海と食をどう守るか」

座長：齊藤 誠一 (日本学術会議連携会員、北海道大学大学院水産科学研究院教授)

パネラー：講演者等

16:55～17:00 閉会挨拶

山内皓平 (日本学術会議会員・PSA 分科会・水産学分科会委員長、愛媛大学教授)

7. 関係部の承認の有無：第二部承認

【連絡先】

帰山雅秀 (日本学術会議特任連携会員、北海道大学大学院水産科学研究院教授)

〒041-8611 函館市港町 3 - 1 - 1

23	
幹事会	80

提 案

シンポジウム「科学技術におけるイノベーションの創出と人材育成
～応用物理の目指す方向～」の開催について

1. 提案者 総合工学委員会委員長
2. 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

1. 主 催： 日本学術会議 総合工学委員会 未来社会と応用物理分科会
2. 共 催： 応用物理学会、電子情報通信学会、日本物理学会（予定）
3. 後 援： なし
4. 日 時： 平成 21 年 11 月 19 日（木）13:15～17:30
5. 場 所： 日本学術会議講堂
6. 分科会の開催： 総合工学委員会 未来社会と応用物理分科会
7. 開催趣旨：

人類の安心・安全な社会システムの実現と我が国の科学技術立国の堅持には、環境、エネルギー、食料などの学際的、融合的な領域におけるイノベーションの創出が求められる。このシンポジウムでは、応用物理学の視点から、各界のリーダーを迎えて我が国の科学・技術の進むべき方向とそれを担う人材育成についてご意見を伺う。また、参加者と共に応用物理分野の担う役割について考える機会を持つ。
8. 次 第：

13:15 開会挨拶： 未定

- 13 : 20 講演 : 小宮山 宏 (三菱総合研究所理事長、日本学術会議連携会員)
「我が国のシンクタンクとしての立場とトップの人材育成の観点から
(仮題)」
- 13 : 50 講演 : 野間口 有 (独立行政法人 産業技術総合研究所理事長)
「科学技術におけるイノベーション創出 (仮題)」
- 14 : 20 講演 : 西川 泰蔵 (内閣府官房審議官 (科学技術政策担当))
「イノベーション創出のための我が国の科学技術戦略 : 政策立案の立
場から (仮題)」
- 14 : 50 講演 : 榊 裕之 (豊田工業大学副学長、日本学術会議未来社会と応用物理
分科会委員) あるいは、荒川 泰彦 (東京大学教授、日本学術会議
未来社会と応用物理分科会委員)
「ナノサイエンス・テクノロジー研究の立場から (仮題)」
- 15 : 20 講演 : 北原 和夫 (国際基督教大学教授、日本学術会議連携会員)
「物理、理科教育の観点から (仮題)」
- 15 : 50ー16 : 00 休憩
- 16 : 00 パネル討論 : 「応用物理分野のイノベーションを支える人材育成 (仮題)」
司会を含め6名程度のパネリストをお願いして、フロアを含め
た意見を通して、提言に向けての意見を集約する。
小館香椎子 (日本女子大学教授、日本学術会議未来社会と
応用物理分科会委員) ほか
- 17 : 25 閉会挨拶 : 未定

<問合せ先>

荒川泰彦 (東京大学)

E-mail : arakawa@iis.u-tokyo.ac.jp

T e l : 03-5452-6245

9. 関係部の承認の有無 : 第三部承認

10. その他 : 参加費無料

2 4	
幹事会	8 0

提 案

公開シンポジウム「社会格差の広がり子どもの健康への影響 ―今、学校保健に何が求められているか」の開催について

1. 提案者 基礎医学委員会委員長、健康・生活科学委員会委員長
2. 提 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

1. 主 催：日本学術会議基礎医学委員会・健康・生活科学委員会合同パブリックヘルス科学分科会、健康・生活科学委員会子どもの健康分科会、日本学校保健学会
2. 日 時：平成21年11月29日（日）9：45～12：00
3. 場 所：沖縄県立看護大学
〒902-0076 沖縄県那覇市与儀1丁目24番1号
4. 開催趣旨：

近年の日本社会における経済格差の拡大や、安全・安心を保障するセーフティネットの破綻、家族や地域社会の人々の結びつきの弱体化や崩壊などの社会現象が進行し、これらとともに人々の健康への影響が指摘されている。これらは主に大人の健康について明らかにされつつあるが、家族及び社会的擁護の中で健全に成長・発達すべき子どもの健康にも大きく影響すると思料されるところであり、これらを明らかにし、子どもの健康を守り増進することは学校保健の新たな重要な課題である。

学校保健における健康格差の問題は、単に児童生徒の健康状態の差を問題とするのではなく、その格差が社会経済的要因・格差（教育もその一つである）と密接に関連していることを検証し、わが国の社会経済格差が児童生徒の健康にまで影響しているものなら、ただ単に健康状態への医療的アプローチ・臨床的アプローチだけでなく、その根源にある社会経済的要因への社会全体でのアプローチが必要なことを明らかにすることと、関係者と連携・協力しその問題解決を図ることにある。これらは、現在、子どもの健康分科会が提言を意図して作業中の「日本の子どものヘルスプロモーション」の重要な柱である「支援的社会環境の整備」、「ヘルスケアの方向性の転換」と密接な関係も有している。

これらのために、学校保健領域の研究者、実践家、政策関係者や一般参加者と情報交換や議論を行い、学校現場を始めとした関係者の取り組みや、健康政策、教育政策、社会政策について考えたい。

5. 次第：

○挨拶（5分）

實成文彦（日本学術会議連携会員、同健康・生活科学委員会子どもの健康分科会委員長、同基礎医学委員会・健康・生活科学委員会合同パブリックヘルス科学分科会副委員長、山陽学園大学・山陽学園短期大学副学長）

○趣旨と進行の説明：

社会格差の広がり子どもの健康への影響 ―今、学校保健に何が求められているか（5分）

コーディネーター；朝倉隆司（東京学芸大学教育学部教授）、高橋浩之（千葉大学教育学部教授）

（1）子どもの健康と社会格差（社会的不平等）に関する研究の現状（20分）

上地 勝（茨城大学教育学部准教授）

（2）養護教諭から見た子どもたちの健康と社会格差の現状 ―沖縄県の場合（15分）

冨永妙子（元沖縄県養護教諭）

（3）養護教諭から見た子どもたちの健康と社会格差の現状 ―千葉県市川市の場合（15分）

井上智恵子（市川市立第七中学校養護教諭）

（4）子どもの教育と健康における格差（20分）

高橋浩之（千葉大学教育学部教授）

（5）ソーシャルキャピタルと子どもの健康の社会格差（20分）

朝倉隆司（東京学芸大学教育学部教授）

（6）格差社会及び子どもの健康をめぐる日本学術会議の諸活動（15分）

小林章雄（日本学術会議連携会員、同基礎医学委員会・健康・生活科学委員会合同パブリックヘルス科学分科会幹事、同健康・生活科学委員会子どもの健康分科会幹事、愛知医科大学医学部教授）

○質疑と討論（20分）

○閉会の挨拶（数分）

宮下和久（日本学術会議連携会員、同健康・生活科学委員会子どもの健康分科会委員、和歌山県立医科大学医学部教授）

6. 関係部の承認の有無：第二部承認

2 5	
幹事会	8 0

提 案

「阪神・淡路大震災 15 周年フォーラム」の開催について

1. 提案者 土木工学・建築学委員長
2. 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

1. 主 催：日本学術会議 土木工学・建築学委員会
2. 共 催：日本建築学会 土木学会 日本地震工学会
3. 後 援：調整中
4. 日 時：平成 22 年 1 月 18 日(月) 10:00～17:00
5. 場 所：神戸国際会議場(ポートアイランド)
6. 分科会の開催：なし
7. 開催趣旨：阪神・淡路大震災から 15 年を契機に、「日本学術会議と学協会はこの 15 年間どのような活動を展開し、どのように社会の地震災害の軽減に貢献して来たのか」、「将来の地震対策のために学術団体に求められていることは何か」、「民産官との連携のあり方」を問い、新たな活動の方向性を見出し、必要な調査・研究活動を行ってわが国はもとより世界の地震災害軽減に貢献することが求められている。
このため、日本学術会議と地震災害軽減に係る学協会共催のフォーラムを来年 1 月に開催し、地震災害軽減のための課題、今後の学術団体の協同のあり方などを検討し、声明をとりまとめ社会へ発信する。
8. 次 第：
 - 特別講演 濱田 政則(早稲田大学教授/土木工学・建築学委員会委員長)
 - パネルディスカッション：地震災害軽減に向けての学協会の役割

和田 章(東京工業大学教授/土木工学・建築学委員会幹事)

9. 関係部の承認の有無：第三部承認

10. その他：自由参加・参加費無料

26	
幹事会	80

提 案

日本学術会議主催公開講演会 「大学教育の分野別質保証を考える」の開催について

- 1 提 案 者 科学者委員会委員長
- 2 議 案 標記講演会を下記のとおり開催すること。

記

- 1 主 催 日本学術会議
- 2 日 時 平成 21 年 10 月頃
- 3 会 場 日本学術会議講堂（希望）
- 4 趣 旨

平成 20 年 12 月に出された、文部科学省・中央教育審議会の答申「学士課程教育の構築に向けて」では、学士課程教育の構築という方向が打ち出され、「学士力」という考え方の提示をはじめ、大学教育の在り方に関する各種の提言が行われた。

「学士力」は、各専攻分野を通じて培う、学士課程共通の学習成果に関する参考指針として提示されたものであるが、同答申では、これに加えて、分野別の質保証も重要であるとして、「将来的な分野別評価の実施を視野に入れて、大学間の連携、学協会を含む大学団体等を積極的に支援し、日本学術会議との連携を図りつつ、分野別の質保証の枠組みづくりを促進する。」という方針が打ち出された。そして、当時の中央教育審議会での審議の課程を踏まえ、同年 5 月には、文部科学省高等教育局長から、日本学術会議会長に対して、「大学教育の分野別質保証の在り方」に関して審議を行うよう依頼がなされた。

人文・社会科学と自然科学の全分野を包摂し、日本の科学者コミュニティを代表する立場にある日本学術会議は、こうした文部科学省・中央教育審議会の認識を受け止めて、この問題に関して相応の役割を果たすべく、依頼を受けて審議を行うこととし、同年 6 月に、課題別委員会「大学教育の分野別質保証在り方検討委員会」を設置し、まずは個別の専門分野で審議を行うに当たっての共通方針・共通課題について審議を

重ねてきた。

平成 21 年以降、本委員会では、「質保証枠組み検討分科会」「教養教育・共通教育検討分科会」「大学教育と職業との接続検討分科会」からなる 3 分科会に分かれて、それぞれ具体的な問題点について審議を行ってきたが、今秋以降には、個別の専門分野での審議に移行することとしており、それに向けて、3 分科会においてもそれぞれの検討結果を取りまとめつつある。

教養教育・共通教育検討分科会では、現代において求められる教養を、「自省」「参加・関与・協働」「公智」「越境・融合・統合」の 4 つの観点から再定義するとともに、これを専門教育と共通教育とが一体となって形成される学士課程教育において学生が身に付けられるよう、そのための具体的な方法論についても提言をまとめつつある。

質保証枠組み検討分科会では、今後行う予定である個別の専門分野での審議の具体的な課題として、各大学の教育課程が、「学士」の知識・能力獲得に必要な適切な体系性と構造を備えたものとなるよう、教育課程を編成する際の拠り所となる参照基準を策定することを構想し、また、関連する諸問題として、分野設定の在り方や分野別の審議体制等についても具体的な方針をまとめつつある。

大学教育と職業との接続検討分科会では、従来大学教育と学生生活に重大な影響を与えている、「就活」の問題を切り口として、歴史的経緯や日本に特有な労働市場の構造分析等も踏まえて、職業能力形成という側面から、大学教育の一つの新しい方向性を提言すべく現在審議を進めている。

本課題別委員会とその下に設置されている 3 分科会については、もとより審議は公開しており、また、議事要旨も学術会議HPに掲載し、常時一般からの意見を受け付けているが、今般、当面の審議結果について報告を取りまとめるに当たり、公開の場で、学術会議の会員・連携会員はもとより、広く大学関係者、さらには一般市民に知っていただくとともに、多様な意見をお寄せいただく機会を設けることは、極めて重要なこととであると考え、本件講演会を企画した。

5 次第

第一部 講演

- | | |
|--------------------|---|
| 「大学教育の分野別質保証について」 | 北原和夫（連携会員、国際基督教大学教授） |
| 「現代の教養と学士課程教育」 | 小林傳司（連携会員、大阪大学教授） |
| 「大学教育の職業的レリバンス」 | 本田由紀（特任連携会員、東京大学教授） |
| 「大学教育に対する産業界からの要望」 | 靱井勝人（特任連携会員、日本ユニシス代表取締役社長） |
| 「大学教育の質保証システムについて」 | 黒田壽二（金沢工業大学学園長・総長、
中央教育審議会大学分科会質保証
システム部会部会長） |

第二部 パネルディスカッション

パネリスト：第一部の講演者及び学生 2 名

コーディネーター：山上浩二郎（朝日新聞編集委員）

司会：吉川裕美子（特任連携会員、大学評価・学位授与機構教授）

以上

27	
幹事会	80

提 案

日本学術会議主催公開講演会
「ダーウィン生誕200年—その歴史的・現代的意義—」の開催に
ついて

- 1 提 案 者 科学者委員会委員長
- 2 議 案 標記講演会を下記のとおり開催すること。

記

- 1 主 催 日本学術会議
- 2 日 時 平成21年12月5日
- 3 会 場 日本学術会議講堂
- 4 趣 旨

2009年は、近代進化論を確立したチャールズ・ダーウィン（Charles Darwin, 1809-1882）の生誕200周年に当たり、また、その主著『種の起源』（On the Origin of Species）の出版150周年にも当たる。近年の遺伝学と生態学の発展により、生物学においてダーウィンの進化理論が改めて高く評価されるようになり、また、ダーウィンが書き残した草稿類の研究が進んだことにより、ダーウィンの生涯と研究経過が大きく見直されるようになった。こうした状況を反映して、ダーウィンを再評価するさまざまな記念行事が生誕地イギリスはもとより、世界各地で国際会議等が開催されている。

ダーウィンの進化論は生物学だけでなく、社会的・思想的にも大きな影響を与えてきた。今日、分野を超えてダーウィンについて検討することはきわめて有意義であると考えられる。

この記念すべき年に、次のように、ダーウィンの業績と影響を歴史的に検討するシンポジウムを企画するものである。

まず、下記の2つの大きなテーマについて、それぞれ3人の専門家による講演を行う。

- （1）近年の研究成果に基づくダーウィンの生涯と業績の再評価
- （2）ダーウィンの進化論の社会的影響の分析

この後、多彩な分野から講演に対する論評を聞き、また、一般聴衆からの意見も聞いて、議論を深める。

さらに、会場の一角でダーウィンの編著書および草稿類の翻刻版を中心にした資料展示を行う。

協力していただける学協会としては、日本科学史学会、日本進化学会、日本動物学会などが確定している。また貴重な資料を保有されている桃山学院大学も共催協力を約束してくれている。

なお、本シンポジウムとは別に自然科学分野でのダーウィン・シンポジウムの企画があるが、本シンポジウムは主として歴史的視点からダーウィンの功績を解明しようとするものである。本年8月に予定されている自然分野でのシンポジウムとは互いに協力し合い、補完しあうことを意図している。

5 演題・演者等（予定、交渉中のものも含む。）

開会挨拶 浅島 誠（学術会議第20期副会長）

第1部 ダーウィンの生涯と業績

1) 松永俊男（桃山学院大学名誉教授）：近年のダーウィン研究から見たダーウィンの生涯

2) 矢島道子（東京医科歯科大学講師）：ダーウィンの地質学

3) 小川眞里子（三重大大学教授）：ダーウィンの生物学

第2部 ダーウィンの影響

1) 横山輝雄（南山大学教授）：ダーウィニズムの思想史上の意義

2) 富山太佳夫（青山学院大学教授）：ダーウィニズムの社会的影響

3) 溝口元（立正大学教授）：ダーウィンの日本への影響

第3部 討論「ダーウィンの現代的意義」

1) 佐倉統（東京大学教授）：進化学の立場から

2) 長谷川眞理子（日本進化学会会長・総合研究大学院大学教授）：人類学の立場から

3) 山田格（国立科学博物館）：自然史博物館の立場から

4) 渡辺政隆（科学技術政策研究所：ジャーナリズムの立場から

閉会挨拶 小谷汪之（第1部史学委員会委員長）

以上

28	
幹事会	80

提 案

日本学術会議主催公開講演会
「世界のグローバル化とメディア文化財の公共的保全・活用」の開催
について

- 1 提 案 者 科学者委員会委員長
- 2 議 案 標記講演会を下記のとおり開催すること。

記

- 1 主 催 日本学術会議
- 2 日 時 平成21年12月頃
- 3 会 場 日本学術会議講堂
- 4 趣 旨

グーグル等のグローバル企業によってあらゆる形態のコンテンツが市場システムに組み込まれていくなかで、人文書やドキュメンタリー等の映像作品、写真、ドラマ脚本等の必ずしも商業的利益にはつながらないメディア文化財の保存と活用に関する公的枠組みはいかにあるべきか。メディア文化財の著作権や所有権をめぐる問題から新しい知のプラットフォームまで、大学と図書館、博物館などの役割とその連携の仕組みについて議論する。

- 5 演 者
長尾真国立国会図書館長（予定）、とちぎあきら国立近代美術館フィルムセンター学芸室長（予定）、テッサ・M・スズキオーストラリア国立大学教授（予定）他

以上

29	
幹事会	80

提 案

日本学術会議近畿地区会議公開学術講演会の開催について

- 1 提案者 科学者委員会委員長
- 2 議 案 標記講演会を下記のとおり開催すること。

記

- 1 主 催 日本学術会議近畿地区会議
(共催：日本学術会議 心理学・教育学委員会 「脳と意識」分科会)
- 2 日 時 平成21年10月11日(日) 13:00～17:30 (予定)
- 3 会 場 京都大学100周年時計台記念館(京都市左京区)
- 4 講演会のテーマ
「人はなぜ笑うのか？」
- 5 次 第
総合司会 苧阪 直行(日本学術会議会員)
日本学術会議近畿地区会議代表幹事
京都大学文学研究科長
13:00 開会挨拶 藤井 信孝(予定)
京都大学理事(研究担当)
13:10 「人間の潜在的『笑い力』の顕在化～健康と親和的人間関係への貢献」
井上 宏 関西大学名誉教授
日本笑い学会会長
14:00 「笑いの脳内メカニズム」
岩瀬 真生 大阪大学大学院医学研究科准教授
(休憩)
15:00 「笑い学研究から感性の科学へ向けて」
野澤 孝司 目白大学講師
(休憩)
16:00 総合討論
17:00 閉会

30	
幹事会	80

提 案

日本学術会議北海道地区会議主催講演会の開催について

- 1 提案者 科学者委員会委員長
- 2 議 案 標記講演会を下記のとおり開催すること。

記

- 1 主 催 日本学術会議北海道地区会議、公立はこだて未来大学
- 2 日 時 平成21年11月7日（土）13：30～17：05（予定）
- 3 会 場 公立はこだて未来大学 講堂
- 4 概 要 (テーマ)「北海道から地球の未来を考える」（仮題）
(開催趣旨)

理科離れが問題にされている。しかしながら、山積みしている地球温暖化などの環境問題を解決するのには、科学技術が不可欠である。そこでは、グローバル化の中で相互依存関係を深める社会の複雑な問題解決に寄与しうる科学技術の力が求められている。科学技術は今、地球にどのような未来を描き、人々にどのような夢を与えうるのだろうか。未来を創造するうえで、情報技術はどのような貢献をできるのだろうか――。このような問題に日本で唯一、“食料自給率 100%超”を誇る北海道から、“解”を発信したいと考える。

鍵は IT（情報技術）応用にあると考えている。IT（情報技術）とはインターネットのことだけではない。もっともっと大きな可能性を秘めている。「情報」を活用することによって、「物質」や「エネルギー」を補うことが可能である。情報は物理量ではないから、自然法則の制約が少ない、制約はむしろ人間の側にある。IT 応用の鍵は想像力にある。そのために、科学技術をバックグラウンドに持つ理系 SF 作家に登場いただき、科学技術を“空から”“海から”...、様々な角度から俯瞰し、未来を語ることでできる方々に集まっていただいた。

(プログラム)

13:30-14:00 オープニング：

日本学術会議北海道地区会議から挨拶

日本学術会議（東京）から役員御講演（依頼）

総合司会：元村有希子（「理系白書」の毎日新聞記者）

14:00-14:30

問題提起：中島秀之（日本学術会議連携会員）：「ITは人類を救うか？」

14:30-14:35

コメント：元村有希子

14:45-15:15

講演1：瀬名秀明（SF作家）：青い空から未来を語ろう

14:15-14:20

コメント：元村有希子

15:20-15:50

講演2：藤崎慎吾（SF作家）：SF的視点からの「多様性」

15:50-15:55

コメント：元村有希子

16:10-17:00 パネル討論

コーディネータ：元村有希子

パネリスト：中島秀之，瀬名秀明，藤崎慎吾

17:00-17:05

クロージング：中島秀之

3 1	
幹事会	8 0

提 案

日本学術会議九州・沖縄地区会議学術講演会の開催について

- 1 提案者 科学者委員会委員長
- 2 議 案 標記講演会を下記のとおり開催すること。

記

- 1 主 催 日本学術会議九州・沖縄地区会議、鹿児島大学
- 2 日 時 平成21年11月16日（月） 15：00～17：15
- 3 場 所 鹿児島大学 稲盛会館キミ&ケサメモリアルホール
- 4 次 第

（テーマ）

「食の安全と、どう取り組むか」

（講師及び演題）

（1）挨拶

日本学術会議会長（予定）

鹿児島大学長 吉田浩己

（2）講演

① 「食品の安全管理と第三者認証制度」（仮題） 60 分間

坂本文男（さかもとふみお）氏（予定）

（財）日本適合性認定協会検査機関認定委員

② 「意図的汚染を防ぐ食の防犯」（仮題） 60 分間

東島弘明（はるしまひろあき）氏（予定）

（財）日本冷凍食品検査協会常務理事

（3）討論

3 2	
幹事会	8 0

提 案

日本学術会議東北地区会議公開学術講演会の開催について

- 1 提案者 科学者委員会委員長
- 2 議 案 標記講演会を下記のとおり開催すること。

記

- 1 主 催 日本学術会議東北地区会議
- 2 共 催 弘前大学、日本学術会議同友会東北部会
- 3 日 時 平成21年11月26日（木）13：00～17：00
- 4 場 所 弘前大学創立50周年記念会館（青森県弘前市）
- 5 次 第

（開催趣旨）

公開学術講演会は、日本学術会議会員が中心となり、各地域の大学、地方公共団体、経済関係団体などの関係者が一同に会し、地域が直面する重要かつ具体的な課題を科学技術の視点から分析し、検討することを通じて、効果的・効率的な地域の人的ネットワークおよび共同研究体制の形成を実現することを目的とする。

（タイトル）

「世界自然遺産白神山地を考える－自然保護と共生－」（仮題）

（プログラム）

（1）開会挨拶

栗原 和枝 （日本学術会議東北地区会議代表幹事）
未 定 （弘前大学 ）

（2）講演

未定」

講演者：弘前大学長 遠藤 正彦 氏

「未 定」

講演者：日本学術会議

「未 定」

講演者：弘前大学名誉教授 牧田 肇 氏

「未 定」

講演者：弘前大学農学生命科学部教授

3 3	
幹事会	8 0

提 案

公開シンポジウム 計画行政学の過去・現在・未来の開催について

- 1 提案者 地域研究委員会委員長
- 2 議 案 標記公開シンポジウムを下記の通り開催すること。

記

1. 主 催 日本学術会議 地域研究委員会・地球惑星科学委員会・環境学委員会合同 IHDP 分科会
日本計画行政学会
2. 日 時 平成 21 年 9 月 11 日（日）9：30～12：00
3. 場 所 香川大学幸町キャンパス

4. 開催趣旨

2009 年 5 月 13 日に、日本学術会議元会員、日本学術会議 IHDP 分科会前委員長、日本計画行政学会元会長の熊田禎宣先生が急逝された。熊田先生のご専門分野は、計画理論、計画情報学、政策情報学、環境共生学、政策評価論など多岐にわたっており、社会工学を核として日本の科学技術・学術の発展に大いに寄与された。先生のご逝去をしのびメモリアルセッションとして公開シンポジウムを開催する。

5. 次 第

司会 ：山本佳世子（電気通信大学大学院情報システム学研究科）

メモリアルセッション開催にあたって：

碓井照子（奈良大学文学部 日本学術会議会員）
原科幸彦（東京工業大学大学院総合理工学研究科）

報告 ：和泉潤（名古屋産業大学環境情報ビジネス学部）
根本敏則（一橋大学大学院商学研究科）
木谷忍（東北大学大学院農学研究科）
坂野達郎（東京工業大学大学院社会理工学研究科）
鐘ヶ江秀彦（立命館大学政策科学部）
松井啓之（京都大学大学院経済学研究科）
氷見山幸夫（北海道教育大学教育学部 日本学術会議連携会員）

コメント：大西隆（東京大学大学院工学系研究科）
村山武彦（早稲田大学理工学術院）
小泉秀樹（東京大学大学院工学系研究科）

6. 関係部の承認の有無：第一部承認

3 4	
幹事会	8 0

提 案

国内会議の後援

1 提 案 者 会 長

2 議 案 後援の依頼について回答すること。

3 提案理由 下記の会議について、後援の依頼があり、関係する部等に審議付託した結果を下記のとおり回答することとしたい。

記

○後援する

名 称 等	申 請 者	審議 付託先
第 6 回中高生南極北極科学コンテスト ① 主催：大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立極地研究所 ② 期間：平成 21 年 6 月 15 日～9 月 10 日 ③ 場所：大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立極地研究所大会議室	大学共同利用機関法人情報・システム研究機構 国立極地研究所 長	第三部
第 50 回大気環境学会年会 ① 主催：大気環境学会 ② 期間：平成 21 年 9 月 16 日～18 日 ③ 場所：慶應義塾大学日吉キャンパス	社団法人大気環境学会会長	第三部
第 89 回慶應医学会総会シンポジウム ① 主催：慶應医学会 ② 期間：平成 21 年 11 月 13 日 ③ 場所：慶應義塾大学病院	慶應医学会会長	第二部
第 33 回人間－生活環境系シンポジウム ① 主催：人間－生活環境系学会 ② 期間：平成 21 年 11 月 28 日～29 日 ③ 場所：福岡女子大学大学会館	人間－生活環境系学会会長	第二部 第三部
ジョン・クレブス卿講演会 ① 主催：東京大学大学院農学生命科学研究科附属食の安全センター・アグリコクーン ② 期間：平成 21 年 9 月 23 日 ③ 場所：東京大学安田講堂	ジョン・クレブス卿講演会準備委員会代表	第二部
SAMPE JAPAN／先端材料技術展 2 0 0 9 ① 主催：先端材料技術協会（SAMPE Japan）、日刊工業新聞社 ② 期間：平成 21 年 11 月 25 日～27 日 ③ 場所：東京国際展示場（東京ビッグサイト）	先端材料技術協会（SAMPE Japan）会長、 日刊工業新聞社 取締役社長	第三部

3 5	
幹事会	8 0

提 案

国際会議の後援について

1 提 案 者 会 長

2 議 案 国際会議を後援すること。

- 3 提案理由 下記の国際会議について後援の申請があり、「日本学術会議の行う国際学術交流事業の実施に関する内規」第38条に基づき、国際委員会（主催等検討分科会）において審議を行ったところ、適当である旨の回答があったので、後援することとしたい。
 なお、国際会議の概要は、別紙のとおりである。

記

- ・第18回ロボットと人間の双方向コミュニケーションに関する国際シンポジウム
- ・2010年アジア・太平洋電波科学会議
- ・科学技術と人類の未来に関する国際フォーラム第6回年次総会

後援を希望する国際会議の概要

会 議 の 名 称	和文：第18回 ロボットと人間の双方向コミュニケーションに関する国際シンポジウム 英文：18th IEEE International Symposium on Robot and Human Interactive Communication (略称：IEEE RO-MAN 2009)								
開 催 時 期	平成21年9月27日～10月2日（6日間）								
開 催 場 所	富山県（富山国際会議場）								
主 催 団 体	IEEE Industrial Electronics Society								
共 催 団 体	IEEE Systems, Man, & Cybernetics Society IEEE Robotics and Automation Society 社団法人日本ロボット学会 Korea Robotics Society								
後 援 団 体	文部科学省（申請中） 経済産業省（申請中） 富山県 富山市 独立行政法人 新エネルギー産業技術総合開発機構（申請中） 独立行政法人 科学技術振興機構（申請中） 独立行政法人 産業技術総合研究所 社団法人 日本ロボット工業会								
母 体 団 体 等	和文：電気電子学会 英文：The Institute of Electrical and Electronics Engineers（略称：IEEE）								
参加予定者数 [参加予定国]	国外 100 人 国内 150 人 計 250 人 [20 カ国]								
会 議 内 容	特別講演、ワークショップ、チュートリアル、講演と機器展示を行うインタラクティブオーラルセッション、ビデオセッション、一般講演等								
会 議 議 事 録 等	学会開催の概要について事後報告する予定								
開催経費の財源	<table> <tr> <td>参 加 費</td><td>11,460 千円</td></tr> <tr> <td>助 成 金</td><td>2,000 千円</td></tr> <tr> <td>その他</td><td>314 千円</td></tr> <tr> <td>計</td><td>13,774 千円</td></tr> </table>	参 加 費	11,460 千円	助 成 金	2,000 千円	その他	314 千円	計	13,774 千円
参 加 費	11,460 千円								
助 成 金	2,000 千円								
その他	314 千円								
計	13,774 千円								
[募 金 団 体]	なし								

申 請 者	18th IEEE International Symposium on Robot and Human Interactive Communication実行委員会 委員長 柴田 崇徳
連 絡 責 任 者	首都大学東京システムデザイン研究科 准教授 和田 一義

後援を希望する国際会議の概要

会 議 の 名 称	和文：2010年アジア・太平洋電波科学会議 英文：2010 Asia-Pacific Radio Science Conference (略称：AP-RASC'10)
開 催 時 期	平成22年9月22日～9月25日（4日間）
開 催 場 所	富山県（富山国際会議場）
主 催 団 体	国際電波科学連合（URSI）
共 催 団 体	電子情報通信学会
後 援 団 体	日本学術会議（申請中） 富山県（申請中）、富山市（申請中）、富山大学（申請中）、 富山県立大学
母 体 団 体 等	和文：国際電波科学連合 英文：International Union of Radio Science（略称：URSI）
参 加 予 定 者 数 〔参加予定国〕	国外 200人 国内 300人 計 500人 〔30カ国・1地域〕
会 議 内 容	開会式、基調講演（2件）、口演研究発表・討論、ポスター 研究発表・討論、SPC・YSA 授賞式、展示、懇親会（ウェルカ ムレセプション、YSA レセプション、SPC レセプション、バ ンケット）、自由討論会、自由交流会等 (*) SPC: Student Paper Competition、YSA: Young Scientist Award
会 議 議 事 録 等	学会開催の概要について事後報告する予定
開催経費の財源	参 加 費 18,950 千円 助 成 金 15,610 千円 寄 付 金 1,000 千円 そ の 他 300 千円 計 35,860 千円
〔募 金 団 体〕	（窓口となる団体名） 財団法人 電気・電子情報学術振興 財団
申 請 者	2010 年アジア・太平洋電波科学会議 大会委員長・実行委員会委員長 小 林 一 哉
連 絡 責 任 者	同 上

後援を希望する国際会議の概要

会 議 の 名 称	和文：科学技術と人類の未来に関する国際フォーラム 第6回年次総会 英文：Science and Technology in Society <i>forum</i> （略称：STS <i>forum</i> ）Sixth Annual Meeting
開 催 時 期	平成21年10月4日～6日（3日間）
開 催 場 所	京都府京都市（国立京都国際会館）
主 催 団 体	特定非営利活動法人STSフォーラム
共 催 団 体	社団法人科学技術国際交流センター
後 援 団 体 （予 定）	内閣府、文部科学省、外務省、経済産業省、 （社）日本経済団体連合会、（独）科学技術振興機構、 （独）産業技術総合研究所、（独）日本貿易振興機構
参 加 予 定 者 数 〔参加予定国〕	国外700人、国内300人、計1000人 〔88ヶ国・2地域〕
会 議 内 容	全体会議及び分科会、議論総括
会 議 議 事 録 等	報告書作成・配布予定
開 催 経 費 の 財 源 〔募 金 団 体〕	参加費 11,000 千円 寄付金・スポンサー協賛金 110,000 千円 その他 10,000 千円 計 131,000 千円 特定非営利活動法人STSフォーラム
申 請 者	特定非営利活動法人STSフォーラム 理事長 尾身 幸次 〒100-0014 千代田区永田町 2-14-2 山王グランドビル 419 号室 TEL：3519-3351
連 絡 責 任 者	特定非営利活動法人STSフォーラム 総務担当 澁谷 慎吾 〒100-0014 千代田区永田町 2-14-2 山王グランドビル 419 号室 TEL：3519-3351